

(別表第1)

サービス評価結果表

サービス評価項目

(評価項目の構成)

I. その人らしい暮らしを支える

(1) ケアマネジメント

(2) 日々の支援

(3) 生活環境づくり

(4) 健康を維持するための支援

II. 家族との支え合い

III. 地域との支え合い

IV. より良い支援を行うための運営体制

ホップ 職員みんなで自己評価!
 ステップ 外部評価でブラッシュアップ!!
 ジャンプ 評価の公表で取組み内容をPR!!!

ーサービス向上への3ステップー
 “愛媛県地域密着型サービス評価”

【外部評価実施評価機関】※評価機関記入

評価機関名	社会福祉法人 愛媛県社会福祉協議会
所在地	愛媛県松山市持田町三丁目8番15号
訪問調査日	平成31年2月20日

【アンケート協力数】※評価機関記入

家族アンケート	(回答数) 12名	(依頼数) 18名
地域アンケート回答数	4名	

※事業所記入

事業所番号	3890200342
事業所名	グループホーム ヒロセドゥーエ
(ユニット名)	オリーブ
記入者(管理者)	
氏名	渡邊 優紀
自己評価作成日	平成31年1月1日

<p>【事業所理念】 相手を思いやる「和」の心と利用者様に「誠意」をもって接する。</p>	<p>【前回の目標達成計画で取り組んだこと・その結果】 家族等の意見や要望について、普段の様子や変化等の話しやすい環境を作り、意見や要望を言いやすいような関係作りに努めている。</p>	<p>【今回、外部評価で確認した事業所の特徴】 事業所は田園地帯の中に立地し、老人保健施設等を併設している。地域関係機関と連携し、イベント等にも積極的に取り組むなど、住民に信頼される事業所として積み上げてきた実績がある。医療機関が母体である利点を活かして、24時間医療体制を整備し、看取りケアにも取り組んでいる。職員は、利用者がこれまでの生活習慣を維持し、自分のペースに合わせて自由に過ごせるよう支援している。保育園児やボランティアの人々との交流、公民館の文化祭や地元盆踊り等の地域行事にも積極的に参加し地域住民とも交流するなど、事業所の良さを活かし、研修等により研さんを積み重ねサービスの向上を目指している事業所である。</p>
---	--	---

評価結果表

項目No.	評価項目	小項目	内容	自己評価	判断した理由・根拠	家族評価	地域評価	外部評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
I. その人らしい暮らしを支える									
(1) ケアマネジメント									
1	思いや暮らし方の希望、意向の把握	a	利用者一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。	○	日常生活の中で本人の思いや意向を確認し、希望に添えるよう支援している。	○		○	日常の会話や関わりの中から思いや意向を把握するよう努めており、意思疎通が困難な利用者は、表情や行動で推測し、家族にも確認することで把握している。
		b	把握が困難な場合や不確かな場合は、「本人はどうか」という視点で検討している。	○	本人様の言葉での確認が困難な場合は、家族様と話し合い、本人様にとって必要な場合は支援を検討している。				
		c	職員だけでなく、本人をよく知る人(家族・親戚・友人等)とともに、「本人の思い」について話し合っている。	○	面会時には家族様から希望を伺い本人様の思いについて話し合い、ケアプランに反映している。				
		d	本人の暮らし方への思いを整理し、共有化するための記録をしている。	○	本人様の希望や気持ちを伺いアセスメントシートに残し、職員間で情報を共有できるようにしている。				
		e	職員の思い込みや決めつけにより、本人の思いを見落とさないように留意している。	○	日々の変化や本人の思い等、現状把握に努め、口頭やノートでの申し送りで情報を共有している。				
2	これまでの暮らしや現状の把握	a	利用者一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、こだわりや大切にしてきたこと、生活環境、これまでのサービス利用の経過等、本人や本人をよく知る人(家族・親戚・友人等)から聞いている。	○	事前に本人様から、または面会時に家族様から生活歴を確認し、「あの頃シート」に記載し本人様の思いを汲み取るために役立っている。			○	入居時に利用者や家族から情報を収集すると共に、関係機関や以前利用していた事業所から得た情報をフェイスシートに記録している。入居後も丁寧に生活歴を聞き取り、「あの頃シート」に記載し職員全員で共有し有効に活用している。
		b	利用者一人ひとりの心身の状態や有する力(わかること・できること・できそうなこと等)等の現状の把握に努めている。	○	ケアプランに沿って日々の変化や現状をケース記録に残し把握に努めている。				
		c	本人がどのような場所や場面で安心したり、不安になったり、不安定になったりするかを把握している。	○	日々の状況は職員間で申し送り等で把握し、共有化している。				
		d	不安や不安定になっている要因が何かについて、把握に努めている。(身体面・精神面・生活環境・職員のかかわり等)	○	毎日バイタル測定をし、心身ともに変化を見落とさないように努めている。				
		e	利用者一人ひとりの一日の過ごし方や24時間の生活の流れ・リズム等、日々の変化や違いについて把握している。	○	ケア実施記録に1日の流れを、又、ケース記録には日々の変化について記録を残し、把握できるようにしている。				
3	チームで行うアセスメント(※チームとは、職員のみならず本人・家族・本人をよく知る関係者等を含む)	a	把握した情報をもとに、本人が何を求め必要としているのかを本人の視点で検討している。	○	アセスメントシートをもとに本人様の思いを引き出し、何を求めているか検討している。			○	利用者の思いや意向など把握した情報をもとに、今何がしたいのか、何を望んでいるのかを盛り込みながら、利用者の視点で生活課題を検討し、馴染みの暮らしが継続できるよう支援している。
		b	本人がより良く暮らすために必要な支援とは何かを検討している。	○	より良く暮らすためのケアの在り方について、職員間で話し合い検討している。				
		c	検討した内容に基づき、本人がより良く暮らすための課題を明らかにしている。	○	本人様・家族様・必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映できる様チームケアに努めている。				

項目No.	評価項目	小項目	内容	自己評価	判断した理由・根拠	家族評価	地域評価	外部評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
4	チームでつくる本人がより良く暮らすための介護計画	a	本人の思いや意向、暮らし方が反映された内容になっている。	○	本人様の思いを汲み取り、本人様の望む暮らしが反映されるよう努めている。	/	/	/	サービス担当者会議に家族が参加できるよう案内し、利用者と家族を交えて介護計画の内容について話し合い、情報を共有しながら意見等を反映し介護計画の作成に努めている。
		b	本人がより良く暮らすための課題や日々のケアのあり方について、本人、家族等、その他関係者等と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映して作成している。	○	本人様や家族様から意向を伺い、日々のケアの在り方について職員間でも話し合い、意見やアイデアを反映できるように検討している。	○	/	○	
		c	重度の利用者に対しても、その人が慣れ親しんだ暮らし方や日々の過ごし方ができる内容となっている。	○	孤独に過ごすことなく今まで通りの生活に近い暮らしができるように介護計画をたてている。	/	/	/	
		d	本人の支え手として家族等や地域の人たちとの協力体制等が盛り込まれた内容になっている。	○	家族様の協力が何よりの支えとなっている事を常に家族様に伝え、面会時にも話し合っている。	/	/	/	
5	介護計画に基づいた日々の支援	a	利用者一人ひとりの介護計画の内容を把握・理解し、職員間で共有している。	○	担当者は作っているが誰でも見れるように話し合いや意見の出し合い等職員間で共有している。	/	/	○	3か月毎にケアカンファレンスを実施し、介護計画の内容を理解し共有している。介護計画は個別ファイルに綴じられ、日々内容を確認しながら支援を行い、実施状況を記録しモニタリングに反映させている。利用者一人ひとりの言葉や行動、職員の気づきや提案等を個別に記録し、共有するよう努めている。
		b	介護計画にそってケアが実践できたか、その結果どうだったかを記録して職員間で状況確認を行うとともに、日々の支援につなげている。	○	介護計画にそってケアが実践できている事等を日々の記録に残してケアプランに沿った支援につなげている。	/	/	○	
		c	利用者一人ひとりの日々の暮らしの様子(言葉・表情・しぐさ・行動・身体状況・エピソード等)や支援した具体的内容を個別に記録している。	○	ケア実施記録やケース記録等支援の内容を個別に記録している。	/	/	○	
		d	利用者一人ひとりについて、職員の気づきや工夫、アイデア等を個別に記録している。	○	ケア実施記録や気づきシートに日々の工夫や気づいた事などを記録している。	/	/	○	
6	現状に即した介護計画の見直し	a	介護計画の期間に応じて見直しを行っている。	○	3ヶ月に1回は見直し日々起きた事は申し送り等で伝え合い見直しに活かしている。	/	/	○	介護計画は3か月毎に見直ししている。利用者の状態に変化が見られない場合も、毎月担当職員がモニタリングを実施し、現状を確認するよう努めている。状態に変化があった場合は、その都度利用者や家族を交えてサービス担当者会議を開催し、介護計画の見直しを行い現状に即した介護計画の作成に努めている。
		b	新たな要望や変化がみられない場合も、月1回程度は現状確認を行っている。	○	毎月モニタリングをし現状把握に努め見直しの必要性を検討している。	/	/	○	
		c	本人の心身状態や暮らしの状態に変化が生じた場合は、随時本人、家族等、その他関係者等と見直しを行い、現状に即した新たな計画を作成している。	○	家族様と話し合い現状に即した新たな介護計画を立て直し変化に合わせた計画を作成している。	/	/	○	
7	チームケアのための会議	a	チームとしてケアを行う上での課題を解決するため、定期的、あるいは緊急案件がある場合にはその都度会議を開催している。	○	状態に変化等あればその都度話し合いをしている。	/	/	◎	毎月定期的に行う会議や3か月毎のカンファレンスで話し合うと共に、緊急時はその都度関係者が集まり検討している。会議で話し合われた内容は、申し送りノートや伝達ノートに記載し、チェック表に捺印し確認しており、参加できない職員も含め、職員全員の情報共有に努めている。
		b	会議は、お互いの情報や気づき、考え方や気持ちを率直に話し合い、活発な意見交換ができるよう雰囲気や場づくりを工夫している。	○	日々の様子やケアの実践、結果など何でも気づいたことは話し合うようにしている。	/	/	/	
		c	会議は、全ての職員を参加対象とし、可能な限り多くの職員が参加できるよう開催日時や場所等、工夫している。	△	参加できない職員には申し送り等で伝え参加できる職員のみで話し合っている。	/	/	/	
		d	参加できない職員がいた場合には、話し合われた内容を正確に伝えるしくみをつくっている。	○	気づきや工夫を個別記録に記入し、情報を共有しながら申し送りノートや議事録に書き残し内容を把握できるようにしている。	/	/	◎	
8	確実な申し送り、情報伝達	a	職員間で情報伝達すべき内容と方法について具体的に検討し、共有できるしくみをつくっている。	◎	申し送りノートを利用し伝達している。1日に1回は必ず目を通し朝礼後に申し送りをしている。	/	/	◎	職員が共有すべき情報は、申し送りノートや伝達ノート等を活用し伝達するなど、情報が確実に共有できるよう工夫している。
		b	日々の申し送りや情報伝達を行い、重要な情報は全ての職員に伝わるようにしている。(利用者の様子・支援に関する情報・家族とのやり取り・業務連絡等)	◎	個別にメモを書き残し申し送りをし、伝達ノートに書いて出勤時に全員が確認している。	○	/	/	

項目No.	評価項目	小項目	内容	自己評価	判断した理由・根拠	家族評価	地域評価	外部評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
(2) 日々の支援									
9	利用者一人ひとりの思い、意向を大切にされた支援	a	利用者一人ひとりの「その日したいこと」を把握し、それを叶える努力を行っている。	△	希望に添えるようしたい事を聞くなど日々の会話の中から探し出し叶えることができるように努めている。	/	/	/	毎日着る服は、利用者一人ひとりの能力等を考慮しながら好みのものを自分で選択できるよう支援している。職員は利用者が何をすれば喜ぶのかを把握し、笑顔で過ごしてもらえるよう声かけに工夫するなど、雰囲気づくりに努めている。
		b	利用者が日々の暮らしの様々な場面で自己決定する機会や場をつくっている。(選んでもらう機会や場をつくる、選ぶのを待っている等)	○	自己決定できる場面を多く作るように工夫し選ぶ楽しみや喜びを感じられるように関わっている。	/	/	○	
		c	利用者が思いや希望を表せるように働きかけたり、わかる力に合わせた支援を行うなど、本人が自分で決めたり、納得しながら暮らせるよう支援している。	○	思いや希望を表せるよう支援し納得ができるよう話を傾聴し自分で決定できるよう支援している。	/	/	/	
		d	職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースや習慣を大切にされた支援を行っている。(起床・就寝、食事・排泄・入浴等の時間やタイミング・長さ等)	○	1日の生活リズムは決まっているが1人ひとりに合わせたタイミングで起床したり等できる限りは思いを汲み取るように支援している。	/	/	/	
		e	利用者の活き活きた言動や表情(喜び・楽しみ・うるおい等)を引き出す言葉がけや雰囲気づくりをしている。	○	何をすれば喜んでいただけるかを把握し笑顔を引き出すような声掛けをし明るい雰囲気作りを心掛けている。	/	/	○	
		f	意思疎通が困難で、本人の思いや意向がつかめない場合でも、表情や全身での反応を注意深くキャッチしながら、本人の意向にそった暮らし方ができるよう支援している。	○	表情や動きで思いが汲み取れるよう日頃から関わりの中で観察を行い意向に添えるように支援している。	/	/	/	
10	一人ひとりの誇りやプライバシーを尊重した関わり	a	職員は、「人権」や「尊厳」とは何かを学び、利用者の誇りやプライバシーを大切にされた言葉かけや態度等について、常に意識して行動している。	○	利用者様1人ひとりの人格を尊重した対応に心がけ、言葉かけをし、プライバシーの保持に努めている。	○	○	○	職員は、人権や尊厳について内部研修で学ぶ機会があり、利用者の誇りやプライバシーを損なう言動がないよう留意し日々の支援に努めている。利用者目線と目線を合わせるなど、さりげなく穏やかな声かけに努めており、居室には必ずノックし声をかけてから入室している。
		b	職員は、利用者一人ひとりに対して敬意を払い、人前であからさまな介護や誘導の声かけをしないよう配慮しており、目立たずさりげない言葉がけや対応を行っている。	○	自分がされて、また言われて恥ずかしいを思う事をしないよう心掛け、他者に気づかれないように配慮している。	/	/	○	
		c	職員は、排泄時や入浴時には、不安や羞恥心、プライバシー等に配慮ながら介助を行っている。	○	排泄や入浴時など1人ひとりに応じた配慮をしている。	/	/	/	
		d	職員は、居室は利用者専用の場所であり、プライバシーの場所であることを理解し、居室への出入りなど十分配慮しながら行っている。	○	居室への出入りする際は声掛けを行い、安心して頂けるよう対応している。	/	/	○	
		e	職員は、利用者のプライバシーの保護や個人情報漏えい防止等について理解し、遵守している。	○	個人情報の取り扱いについて勉強会に参加し理解している。	/	/	/	
11	ともに過ごし、支え合う関係	a	職員は、利用者を介護される一方の立場におかず、利用者に助けってもらったり教えてもらったり、互いに感謝し合うなどの関係性を築いている。	○	敬意を持って接し、言葉掛けを大切にしている。	/	/	/	職員は、利用者同士の人間関係を把握してトラブルにならないよう寄り添い、場合によっては仲介するなど、利用者がお互いを労わり支え合えるよう支援している。
		b	職員は、利用者同士がともに助け合い、支え合って暮らしていくことの大切さを理解している。	○	利用者様職員を含めお互い思いやりを持ち生活できるよう心掛けている。	/	/	/	
		c	職員は、利用者同士の関係を把握し、トラブルになったり孤立したりしないよう、利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている。(仲の良い利用者同士が過ごせる配慮をする、孤立しがちな利用者が交わる機会を作る、世話役の利用者にうまく力を発揮してもらう場面をつくる等)。	○	トラブルになった場合は職員仲介に入り、対応行い、利用者様1人ひとり孤立することなくコミュニケーションをとれるよう支援している。	/	/	○	
		d	利用者同士のトラブルに対して、必要な場合にはその解消に努め、当事者や他の利用者に不安や支障を生じさせないようにしている。	○	トラブルになる前に仲介に入れるよう努め穏やかに利用者様1人ひとりが安心して過ごせるよう支援している。	/	/	/	

項目No.	評価項目	小項目	内容	自己評価	判断した理由・根拠	家族評価	地域評価	外部評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
12	馴染みの人や場との関係継続の支援	a	これまで支えてくれたり、支えてきた人など、本人を取り巻く人間関係について把握している。	○	入居時に家族様や本人様から話を聞き個別記録に詳細に記入している。	/	/	/	
		b	利用者一人ひとりがこれまで培ってきた地域との関係や馴染みの場所などについて把握している。	○	昔話をする際利用者様の育った地域の話もとり入れ職員間共有している。	/	/	/	
		c	知人や友人等に会いに行ったり、馴染みの場所に出かけていくなど本人がこれまで大切にしてきた人や場所との関係が途切れないよう支援している。	○	ドライブレクがある時は利用者様の希望する方面へ行くよう努めている。	/	/	/	
		d	家族、知人、友人等、本人の馴染みの人たちが、いつでも気軽に訪れ、居心地よく過ごせるよう工夫している。	○	馴染みの関係を続けていけるよう家族様に協力して頂き面会できるよう支援している。	/	/	/	
13	日常的な外出支援	a	利用者が、1日中ホームの中で過ごすことがないよう、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう取り組んでいる。(職員側の都合を優先したり、外出する利用者、時間帯、行き先などが固定化していない)(※重度の場合は、戸外に出て過ごすことも含む)	○	積極的に散歩や外気浴に努めている。拒否のある利用者様には時間をおき対応している。感染症時期は控えることがある。	○	○	○	天気の良い日は事業所周辺の田園を散歩したり、利用者の希望を聞きながら、月2回計画的にドライブに出かけている。重度の利用者も福祉車両を活用し遠出したり、中庭に出て外気浴を行ったりすることで気分転換が図れるよう支援している。
		b	地域の人やボランティア、認知症サポーター等の協力も得ながら、外出支援をすすめている。	○	地域の行事の際は参加をし外出の機会を作っている。	/	/	/	
		c	重度の利用者も戸外で気持ち良く過ごせるよう取り組んでいる。	○	本人の希望に応じて中庭にて外気浴を行い景色や窓の風にあたるよう努めている。	/	/	○	
		d	本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら、普段は行けないような場所でも出かけられるように支援している。	○	外食や地域の行事に参加し交流を深めている。	/	/	/	
14	心身機能の維持、向上を図る取り組み	a	職員は認知症や行動・心理症状について正しく理解しており、一人ひとりの利用者の状態の変化や症状を引き起こす要因をひもとき、取り除くケアを行っている。	○	職員同士話し合いを行い1人ひとりに合ったケアを考え、よりそえる介護を実践している。	/	/	/	日課の中に様々な体操を取り入れたり、歌や趣味活動を行ったりすることで利用者が楽しめるよう支援している。利用者一人ひとりの持っている能力を把握し、過剰な介護にならないよう職員が見守りながら支援している。
		b	認知症の人の身体面の機能低下の特徴(筋力低下・平衡感覚の悪化・排泄機能の低下・体温調整機能の低下・嚥下機能の低下等)を理解し、日常生活を営む中で自然に維持・向上が図れるよう取り組んでいる。	○	筋力低下の防止の為にリハビリ体操やタオル体操を実施し筋力の低下防止に努めている。	/	/	/	
		c	利用者の「できること、できそうなこと」については、手や口を極力出さずに見守ったり一緒に行動するようにしている。(場面づくり、環境づくり等)	○	見守ることや励ます声掛けもサービス内容に取り入れ支援している。	○	/	○	
15	役割、楽しみごと、気晴らしの支援	a	利用者一人ひとりの生活歴、習慣、希望、有する力等を踏まえて、何が本人の楽しみごとや役割、出番になるのかを把握している。	○	天気の良い日にはできる限り散歩をして頂けるようにしている。又、本人の希望に沿えるよう楽しみごとや役割は把握している。	/	/	/	利用者の特技や趣味を把握して、趣味活動が継続できるよう支援している。食器を洗うことや野菜の下ごしらえを手伝うことなど、利用者それぞれに役割を担ってもらえるよう努めている。
		b	認知症や障害のレベルが進んでも、張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、日常的に、一人ひとりの楽しみごとや役割、出番をつくる取り組みを行っている。	○	張り合いを持って生活して頂ける様に得意な事やしたい事を聞いて日々過ごして頂いており、塗り絵や歌等、気分転換ができるように支援している。	◎	○	○	
		c	地域の中で役割や出番、楽しみ、張り合いが持てるよう支援している。	△	小学生の下校時の見守りを楽しみにされたり、保育園の行事に参加される等張り合いが持てるよう支援している。	/	/	/	

項目No.	評価項目	小項目	内容	自己評価	判断した理由・根拠	家族評価	地域評価	外部評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
16	身だしなみやおしゃれの支援	a	身だしなみを本人の個性、自己表現の一つととらえ、その人らしい身だしなみやおしゃれについて把握している。	○	利用者様1人ひとりの好みに合わせ衣類を選び替えを行っている。	/	/	/	毎日化粧をする習慣のある利用者に対し、家族から化粧品を預かって化粧ができるよう支援し、衣服の汚れに気づいた時はそれとなく更衣してもらうよう配慮している。重度な状態であっても、好みの服装に着替えるなど、身だしなみを整え、その人らしさが保てるよう支援している。
		b	利用者一人ひとりの個性、希望、生活歴等に応じて、髪形や服装、持ち物など本人の好みで整えられるように支援している。	○	利用者様の希望を伺い家族様に職員と電話をかけ相談・依頼できている。	/	/	/	
		c	自己決定がしにくい利用者には、職員と一緒に考えたりアドバイスする等本人の気持ちにそって支援している。	○	本人様が納得できるよう確認をし衣類の整理を行っている。	/	/	/	
		d	外出や年中行事等、生活の彩りにあわせてその人らしい服装を楽しめるよう支援している。	○	外出時はいつもは着られない特別の衣類で出掛け気分転換図っている。	/	/	/	
		e	整容の乱れ、汚れ等に対し、プライドを大切にできさりげなくカバーしている。(髭、着衣、履き物、食べこぼし、口の周囲等)	○	清潔を保てるよう汚れ等に対しさりげなくカバーしている。	○	○	○	
		f	理容・美容は本人の望む店に行けるように努めている。	○	本人様・家族様の希望に沿い月に2回の散髪を実施している。	/	/	/	
		g	重度な状態であっても、髪形や服装等本人らしさが保てる工夫や支援を行っている。	○	その人らしい身だしなみができるよう工夫している。	/	/	○	
17	食事を楽しむことのできる支援	a	職員は、食事の一連のプロセスの意味や大切さを理解している。	○	職員各自が把握し理解している。	/	/	/	職員は野菜の下ごしらえや後片付けを利用者と一緒に行い、料理を教えるなど協力して台所仕事をしている。管理栄養士と話し合い、献立に利用者の好みを反映させたり、季節ごとの行事食を取り入れたりし、月1回の食事会では、一緒に買い物に出かけ利用者が希望する料理を作っている。茶碗や湯呑などは、利用者専用の使い勝手のいい食器を使用している。職員も利用者と同じ食卓を囲み、見守りながら食事している。重度の利用者にも、食事を楽しんでもらえるよう職員が横に座りメニューの話をするなど雰囲気づくりに努めている。管理栄養士が、バランスよく栄養が摂れるよう考慮して献立を作成するほか、毎日利用者の食事を記録し、場合によっては、利用者の栄養バランスについて話し合うようにしている。
		b	買い物や献立づくり、食材選び、調理、後片付け等、利用者とともにやっている。	◎	食事会では利用者の希望に沿った献立を考え楽しみながら話し合っている。	/	/	○	
		c	利用者とともに買い物、調理、盛り付け、後片付けをする等を行うことで、利用者の力の発揮、自信、達成感につなげている。	◎	盛り付け、味付けなどに参加する事で家族的でうれしい気持ちにつなげている。	/	/	/	
		d	利用者一人ひとりの好きなものや苦手なもの、アレルギーの有無などについて把握している。	◎	利用者様の好みを伺い各職員が把握している。	/	/	/	
		e	献立づくりの際には、利用者の好みや苦手なもの、アレルギー等を踏まえつつ、季節感を感じさせる旬の食材や、利用者にとって昔なつかしいもの等を取り入れている。	○	利用者様ひとりひとりの好き嫌いを理解した上で楽しく笑顔になるようにかかわっている。	/	/	○	
		f	利用者一人ひとりの咀嚼・嚥下等の身体機能や便秘・下痢等の健康状態にあわせた調理方法とつつ、おいしいような盛り付けの工夫をしている。(安易にミキサー食や刻み食で対応しない、いろどりや器の工夫等)	○	利用者様の体調を配慮しながら食べる量や栄養のバランス、1人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援している。	/	/	/	
		g	茶碗や湯飲み、箸等は使い慣れたもの、使いやすいものを使用している。	○	本人様の普段使っている使い慣れたものを使用している。	/	/	◎	
		h	職員も利用者と同じ食卓を囲んで食事を一緒に食べながら一人ひとりの様子を見守り、食事のペースや食べ方の混乱、食べこぼしなどに対するサポートをさりげなく行っている。	○	集団生活の中で一緒に食事をして食べこぼしなどある利用者様は横に座りフォローを行っている。	/	/	◎	
		i	重度な状態であっても、調理の音やにおい、会話などを通して利用者が食事が待ち遠しくおいしく味わえるよう、雰囲気づくりや調理に配慮している。	◎	利用者様が席に着いてから個人の器に温かいごはん、汁物がよそわれて配膳されている様子を見て家庭的なうれしい気持ちになれるようにしている。	○	/	○	
		j	利用者一人ひとりの状態や習慣に応じて食べれる量や栄養バランス、カロリー、水分摂取量が1日を通じて確保できるようにしている。	○	バランスよく献立を考え、こまめに工夫しながら提供している。水分は食事とその他活動後などに提供している。	/	/	/	
		k	食事が少なかったり、水分摂取量の少ない利用者には、食事の形態や飲み物の工夫、回数やタイミング等工夫し、低栄養や脱水にならないよう取り組んでいる。	◎	食事はその都度確認、記録に残っているので食事量、水分量少ない利用者には必要に応じて介助している。	/	/	/	
l	職員で献立のバランス、調理方法などについて定期的話し合い、偏りがないように配慮している。場合によっては、栄養士のアドバイスを受けている。	◎	法人の管理栄養士による献立をもとに調理し利用者様に合わせて提供食事量も毎日確認し記録に残している。	/	/	◎			
m	食中毒などの予防のために調理用具や食材等の衛生管理を日常的に行い、安全で新鮮な食材の使用と管理に努めている。	◎	食材を3回分に分け、衛生には注意している。	/	/	/			

項目No.	評価項目	小項目	内容	自己評価	判断した理由・根拠	家族評価	地域評価	外部評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
18	口腔内の清潔保持	a	職員は、口腔ケアが誤嚥性肺炎の防止につながることを知っており、口腔ケアの必要性、重要性を理解している。	◎	毎食前には嚥下体操をし、誤嚥防止につなげている。	/	/	/	職員は口腔ケアの重要性を認識しており、毎食後の口腔ケアと毎日の義歯洗浄を行っている。協力医による定期的な訪問歯科診療のほか、職員が毎食後に利用者個々の口腔ケアを実施し、口腔内の健康状態を把握し、清潔が保てるよう支援している。
		b	利用者一人ひとりの口の中の健康状況(虫歯の有無、義歯の状態、舌の状態等)について把握している。	○	毎食後ひとりひとりに声かけし、見守り介助にて口腔ケアを実施。	/	/	○	
		c	歯科医や歯科衛生士等から、口腔ケアの正しい方法について学び、日常の支援に活かしている。	○	必要に応じて歯科医院とも連携をとり日常生活している。	/	/	/	
		d	義歯の手入れを適切に行えるよう支援している。	○	入れ歯を丁寧にあつかい、手入れしている。	/	/	/	
		e	利用者の力を引き出しながら、口の中の汚れや臭いが生じないように、口腔の清潔を日常的に支援している。(歯磨き・入れ歯の手入れ・うがい等の支援、出血や炎症のチェック等)	◎	夜間は入れ歯を預かり、毎日消毒している。口腔ケアセットは週1回消毒し清潔保持に努めている。	/	/	○	
		f	虫歯、歯ぐきの腫れ、義歯の不具合等の状態をそのままにせず、歯科医に受診するなどの対応を行っている。	◎	歯科衛生士と連携し、口腔清掃や治療を行ってもらっている。	/	/	/	
19	排泄の自立支援	a	職員は、排泄の自立が生きる意欲や自信の回復、身体機能を高めることにつながることや、おむつ(紙パンツ・パッドを含む)の使用が利用者の心身に与えるダメージについて理解している。	○	声の大きさや声かけの仕方などに注意し人格を尊重し、プライバシーを傷つけないように対応している。	/	/	/	日中夜間共にトイレで排泄できるよう支援しており、排泄状態を詳細に記録し、利用者や家族の希望を確認しながら職員間で話し合い、時間帯や排泄量に合わせて適切な排泄用品を使用できるようにするなど、利用者一人ひとりの状態に応じた支援に努めている。
		b	職員は、便秘の原因や及ぼす影響について理解している。	○	1日の食事量や水分量を記録し、職員全員でわかるようにしている。	/	/	/	
		c	本人の排泄の習慣やパターンを把握している。(間隔、量、排尿・排便の兆候等)	◎	排泄チェック表を活用し排泄パターンを把握している。	/	/	/	
		d	本人がトイレで用を足すことを基本として、おむつ(紙パンツ・パッドを含む)使用の必要性や適切性について常に見直し、一人ひとりのその時々状態にあった支援を行っている。	◎	利用者様の状態に応じ声掛けや定期的トイレ誘導をし、トイレでの排泄ができるように支援している。	◎	/	◎	
		e	排泄を困難にしている要因や誘因を探り、少しでも改善できる点はないか検討しながら改善に向けた取り組みを行っている。	◎	習慣や残存能力、機能回復に考慮した支援を実施している。	/	/	/	
		f	排泄の失敗を防ぐため、個々のパターンや兆候に合わせて早めの声かけや誘導を行っている。	◎	利用者様の排泄のパターンを把握しているので時間を決めて対応している。	/	/	/	
		g	おむつ(紙パンツ・パッドを含む)を使用する場合は、職員が一方的に選択するのではなく、どういう時間帯にどのようなものを使用するか等について本人や家族と話し合い、本人の好みや自分で使えるものを選択できるように支援している。	◎	利用者様の状態によりオムツ、パットをいった用品を選定している。	/	/	/	
		h	利用者一人ひとりの状態に合わせて下着やおむつ(紙パンツ・パッドを含む)を適時使い分けている。	◎	現状が維持できるように努めている。	/	/	/	
		i	飲食物の工夫や運動への働きかけなど、個々の状態に応じて便秘予防や自然排便を促す取り組みを行っている。(薬に頼らない取り組み)	○	利用者様が気持ちよくトイレを使用できるように清掃が行き届いている。又、マッサージや日常の運動をし便秘解消に努めている。	/	/	/	
20	入浴を楽しむことができる支援	a	曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、利用者一人ひとりの希望や習慣にそって入浴できるよう支援している。(時間帯、長さ、回数、温度等)。	○	利用者の状況に合わせて柔軟な対応ができている。	◎	/	◎	2日に1回の入浴を基本として、ゆっくりと入浴できるよう配慮しており、利用者の希望があれば、日程や時間帯、湯温など、できる限り希望に沿えるよう臨機応変な支援に努めている。
		b	一人ひとりが、くつろいだ気分で入浴できるよう支援している。	○	ボディソープやシャンプーなど利用者の好みに応じている。	/	/	/	
		c	本人の力を活かしながら、安心して入浴できるよう支援している。	○	入浴中には入浴剤などを使用しリラックスして入浴できるよう心がけている。	/	/	/	
		d	入浴を拒む人に対しては、その原因や理由を理解しており、無理強いせず気持ち良く入浴できるよう工夫している。	○	誘い方やタイミングなど職員同士アイデアを共有しながら無理強いせずしている。	/	/	/	
		e	入浴前には、その日の健康状態を確認し、入浴の可否を見極めるとともに、入浴後の状態も確認している。	◎	体調や状況に応じて対応している。	/	/	/	

項目No.	評価項目	小項目	内容	自己評価	判断した理由・根拠	家族評価	地域評価	外部評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
21	安眠や休息の支援	a	利用者一人ひとりの睡眠パターンを把握している。	○	日常生活の中での様子や変化を個別に記録している。	/	/	/	日中を活動的に過ごしてもらい、夜間不眠時には職員が寄り添うなど工夫した支援に努め、薬剤に頼らないようにしている。
		b	夜眠れない利用者についてはその原因を探り、その人本来のリズムを取り戻せるよう1日の生活リズムを整える工夫や取り組みを行っている。	◎	ベットや寝具、温度調節を行い気持ちよく休めるように支援している。	/	/	/	
		c	睡眠導入剤や安定剤等の薬剤に安易に頼るのではなく、利用者の数日間の活動や日中の過ごし方、出来事、支援内容などを十分に検討し、医師とも相談しながら総合的な支援を行っている。	◎	利用者様の現状把握に努め、1日の流れに沿って暮らせるように努め、体調変化があれば速やかに医療機関に報告し受診できるようにしている。	/	/	○	
		d	休息や昼寝等、心身を休める場面が個別に取れるよう取り組んでいる。	◎	日中、休憩時間を設ける等個々に合わせている。	/	/	/	
22	電話や手紙の支援	a	家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている。	○	家族様より郵便が届いたらお礼の電話をする際の支援を行っている。	/	/	/	
		b	本人が手紙が書けない、電話はかけられないと決めつけず、促したり、必要な手助けをする等の支援を行っている。	○	家族様等に本人様が電話したり、手紙のやりとりができるよう支援している。	/	/	/	
		c	気兼ねなく電話できるよう配慮している。	○	ステーション内の電話で申し出があれば電話できるようにしている。	/	/	/	
		d	届いた手紙や葉書をそのままにせず音信がとれるように工夫している。	○	電話したり手紙をかいたりできるよう支援できるようにしている。	/	/	/	
		e	本人が電話をかけることについて家族等に理解、協力をしてもらうとともに、家族等からも電話や手紙をくれるようお願いしている。	○	本人様が希望すれば電話することを伝えている。家族様への協力もしてもらっている。	/	/	/	
23	お金の所持や使うことの支援	a	職員は本人がお金を所持すること、使うことの意味や大切さを理解している。	△	利用者様が金銭管理をしていない方もおられる。	/	/	/	
		b	必要物品や好みの買い物に出かけ、お金の所持や使う機会を日常的につくっている。	○	必要物品は家族様が購入されている。一部の物は購入する機会を作っている。	/	/	/	
		c	利用者が気兼ねなく安心して買い物ができるよう、日頃から買い物先の理解や協力を得る働きかけを行っている。	○	定期的な買い物の機会をもうけている。また月に2回、移動パン屋さんが来て、好きなパンを購入されている。	/	/	/	
		d	「希望がないから」「混乱するから」「失くすから」などと一方的に決めてしまうのではなく、家族と相談しながら一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している。	○	小遣いは事務所で一時的に預かる場合があるが必要時は事務所で一時的に対応できることを家族様と話し合い理解を得ている。	/	/	/	
		e	お金の所持方法や使い方について、本人や家族と話し合っている。	○	小遣いは利用毎に預かり家族様に報告している。	/	/	/	
		f	利用者が金銭の管理ができない場合には、その管理方法や家族への報告の方法などルールを明確にしており、本人・家族等の同意を得ている。(預り金規程、出納帳の確認等)。	○	日常の小遣いは管理していないが希望により買い物に行く時家族様より預かりその都度領収証と残高を渡している。	/	/	/	
24	多様なニーズに応える取り組み		本人や家族の状況、その時々ニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる。	○	突発的なニーズにもできる限り対応できるよう十分な話し合いを持ちサービス提供できるよう努力している。	○	/	○	急な病院受診に家族が付き添えない場合に、職員が付き添うことや近所の人に会いたいと希望する利用者、家族の協力を得ながら実現できるようにすること等、柔軟な支援に努めている。

項目No.	評価項目	小項目	内容	自己評価	判断した理由・根拠	家族評価	地域評価	外部評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
(3)生活環境づくり									
25	気軽に入れる玄関まわり等の配慮		利用者や家族、近隣の人等にとって親しみやすく、気軽に出入りができるように、玄関や建物周囲の工夫をしている。	◎	中庭の草花を見て楽しまれたり、ゆっくりを日光浴が出来るようベンチも設置している。	◎	○	○	玄関まわりに草花を植え、くつろげるようベンチを設置することで、開放感があり入りやすい雰囲気になっている。
26	居心地の良い共用空間づくり	a	共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、家庭的な雰囲気有しており、調度や設備、物品や装飾も家庭的で、住まいとしての心地良さがある。(天井や壁に子供向けの飾りつけをしていたり、必要なものが置いていない殺風景な共用空間等、家庭的な雰囲気をそぐような設えになっていないか等。)	◎	台所からリビングルームが見渡せ回りを田園風景に囲まれ心地良い空間となっている。	○	○	◎	オープンキッチンがあるなど共用空間は明るく、広々とし心地よい空間となっている。事業所内は清掃が行き届き、不快な臭いも感じないなど、清潔感がある。壁には利用者と職員合作の節分飾り等、季節に応じたものが掛けられるなど、季節を感じられるよう配慮されている。
		b	利用者にとって不快な音や光、臭いがないように配慮し、掃除も行き届いている。	◎	掃除は行き届いており、居心地が良い。	/	/	/	
		c	心地よさや能動的な言動を引き出すために、五感に働きかける様々な刺激(生活感や季節感を感じるもの)を生活空間の中に採り入れ、居心地よく過ごせるよう工夫している。	○	季節感を感じる壁画作りで生活空間を楽しんでいる。	/	/	/	
		d	気の合う利用者同士で思い思いに過ごせたり、人の気配を感じながらも独りになれる居場所の工夫をしている。	◎	気の合う利用者同士で話し合える場所作りをしている。	/	/	/	
		e	トイレや浴室の内部が共用空間から直接見えないよう工夫している。	○	共有空間からトイレや浴室は離れていて直接見えることはない。	/	/	/	
27	居心地良く過ごせる居室の配慮		本人や家族等と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている。	◎	家族様の写真など大切な物を居室に飾り心身ともに落ち着かれ居心地よく過ごされている。	◎	/	◎	ベッドや馴染みの家具、テレビ等を思い思いに配置するほか、家族の写真や花、折り紙や塗り絵等の作品を飾るなど、居室は居心地よく過ごせるようになっている。
28	一人ひとりの力が活かせる環境づくり	a	建物内部は利用者一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように配慮や工夫をしている。	◎	手伝いに入られた際には近位見守りしながら本人様の出来ることを活かせるよう支援している。	/	/	/	車いす利用者も安全に移動できるよう、足元には不要なものは置かれていないほか、居室の表札やトイレ表示を大きく分かりやすくするなど工夫し、自立した生活が送れるよう配慮している。
		b	不安や混乱、失敗を招くような環境や物品について検討し、利用者の認識間違いや判断ミスを最小にする工夫をしている。	○	分かりにくいと思われる所には張り紙や目印を付ける等工夫している。	/	/	/	
		c	利用者の活動意欲を触発する馴染みの物品が、いつでも手に取れるように生活空間の中にさりげなく置かれている。(ほうき、裁縫道具、大工道具、園芸用品、趣味の品、新聞・雑誌、ポット、急須・湯飲み・お茶の道具等)	○	利用者様の馴染みの物品に対して生活空間の中でさりげなく置いていたり片付ける場所を決めてすぐに取り出せるようにしている。	/	/	/	
29	鍵をかけないケアの取り組み	a	代表者及び全ての職員が、居室や日中にユニット(棟)の出入り口、玄関に鍵をかけることの弊害を理解している。(鍵をかけられ出られない状態で暮らしていることの異常性、利用者にもたらす心理的不安や閉塞感・あきらめ・気力の喪失、家族や地域の人にもたらす印象のデメリット等)	○	居室の鍵はかける事なく暮らしている。ユニットの鍵は家族様の同意を得て不穏時や離設の恐れのある場合のみかけている。	◎	◎	×	職員は玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、玄関は日中開放されているが、各ユニット出入口は電子ロック構造になっているため、日中ユニットの電子ロックを開錠する方向で検討されており、今後の取組みに期待したい。
		b	鍵をかけない自由な暮らしについて家族の理解を図っている。安全を優先するために施錠を望む家族に対しては、自由の大切さと安全確保について話し合っている。	○	安全管理の重要性の理解を求めると共に鍵は最低限だけにしている。	/	/	/	
		c	利用者の自由な暮らしを支え、利用者や家族等に心理的圧迫をもたらさないよう、日中は玄関に鍵をかけなくてもすむよう工夫している(外出の察知、外出傾向の把握、近所の理解・協力の促進等)。	○	入居者様の行動を把握し心理的に圧迫しないよう自由な暮らしが出来るよう努めている。	/	/	/	

項目No.	評価項目	小項目	内容	自己評価	判断した理由・根拠	家族評価	地域評価	外部評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
(4) 健康を維持するための支援									
30	日々の健康状態や病状の把握	a	職員は、利用者一人ひとりの病歴や現病、留意事項等について把握している。	○	フェイスシートやカルテ上の情報を確認し、一人ひとり把握している。				
		b	職員は、利用者一人ひとりの身体状態の変化や異常のサインを早期に発見できるように注意しており、その変化やサインを記録に残している。	◎	入居者様一人ひとりの変化や状態を個別記録に具体的に記録し職員間で情報を共有している。				
		c	気になることがあれば看護職やかかりつけ医等いつでも気軽に相談できる関係を築き、重度化の防止や適切な入院につなげる等の努力をしている。	◎	広瀬クリニック、広瀬病院との連携を図り日常の健康管理をしている。24時間医療連携も可能な支援をしている。				
31	かかりつけ医等の受診支援	a	利用者一人ひとりのこれまでの受療状況を把握し、本人・家族が希望する医療機関や医師に受診できるよう支援している。	◎	希望のかかりつけ医とも連携を図り、適切な医療が受けられるよう支援している。	◎			
		b	本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している。	◎	協力医療機関も整っており、訪問診療も受けることができる。緊急時の対応が確保されている安心感もある。				
		c	通院の仕方や受診結果の報告、結果に関する情報の伝達や共有のあり方等について、必要に応じて本人や家族等の合意を得られる話し合いを行っている。	○	体調変化があればその都度本人様、家族様と十分話し合い、説明しながら方針を共有している。				
32	入退院時の医療機関との連携、協働	a	入院の際、特にストレスや負担を軽減できる内容を含む本人に関する情報提供を行っている。	○	入院の際には本人様の情報が明確に分かるようサマリーを記入している。				
		b	安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。	○	入院中も主治医と連携し早期退院にむけて話し合い家族様とも相談し協力している。				
		c	利用者の入院時、または入院した場合に備えて日頃から病院関係者との関係づくりを行っている。	○	他部署とも連携を普段からとっている。				
33	看護職との連携、協働	a	介護職は、日常の関わりの中で得た情報や気づきを職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談している。看護職の配置や訪問看護ステーション等との契約がない場合は、かかりつけ医や協力医療機関等に相談している。	◎	訪問看護や病院と連携を図り、状態を報告、相談し、健康管理をする事ができている。				
		b	看護職もしくは訪問看護師、協力医療機関等に、24時間いつでも気軽に相談できる体制がある。	◎	母体である病院と24時間体制で連絡をとる事ができ緊急時の対応も確保できている。				
		c	利用者の日頃の健康管理や状態変化に応じた支援が適切にできるよう体制を整えている。また、それにより早期発見・治療につなげている。	◎	利用者様の状態変化があれば職員間で情報を共有し、病院や訪問診療時に医師に相談し早期発見に努めている。				
34	服薬支援	a	職員は、利用者が使用する薬の目的や副作用、用法や用量について理解している。	○	職員同士でしっかり情報を共有し全職員が内容を把握する事ができるよう努めている。				
		b	利用者一人ひとりが医師の指示どおりに服薬できるよう支援し、飲み忘れや誤薬を防ぐ取り組みを行っている。	◎	飲み忘れや誤薬を防ぐ為、複数の目で確認し服薬時は日付や名前の確認もかさず行っている。				
		c	服薬は本人の心身の安定につながっているのか、また、副作用(周辺症状の誘発、表情や活動の抑制、食欲の低下、便秘や下痢等)がないかの確認を日常的に行っている。	○	毎日の健康状態をチェックし状態の変化があれば職員間で話し合い医師に相談している。				
		d	漫然と服薬支援を行うのではなく、本人の状態の経過や変化などを記録し、家族や医師、看護職等に情報提供している。	○	本人様の状態変化や経過を常にカルテに記録し家族様や医師に報告、情報共有している。				

項目No.	評価項目	小項目	内容	自己評価	判断した理由・根拠	家族評価	地域評価	外部評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
35	重度化や終末期への支援	a	重度化した場合や終末期のあり方について、入居時、または状態変化の段階ごとに本人・家族等と話し合いを行い、その意向を確認しながら方針を共有している。	○	契約時説明を行い、本人様や家族様の意向を伺っている。また変化があればその都度十分に話し合いながら方針の共有を行っている。	/	/	/	母体が医療機関であり、24時間医療体制を整え、利用者や家族の要望に応じて看取りを行う方針である。入居時に終末期をどこで迎えたいかの意向を確認しており、容態に変化があった際は、その都度家族や医療関係者等と話し合い方針を共有している。
		b	重度化、終末期のあり方について、本人・家族等だけではなく、職員、かかりつけ医・協力医療機関等関係者で話し合い、方針を共有している。	○	病院や訪問看護と方針を共有し、今後の対応についても話し合いを行っている。	○	/	○	
		c	管理者は、終末期の対応について、その時々職員の思いや力量を把握し、現状ではどこまでの支援ができるかの見極めを行っている。	○	看取りに対する知識を深める為、勉強会を実施し、チームケアができるよう体制を整えている。	/	/	/	
		d	本人や家族等に事業所の「できること・できないこと」や対応方針について十分な説明を行い、理解を得ている。	○	入居時も本人様・家族様の意向を伺い理解を得ている。	/	/	/	
		e	重度や終末期の利用者が日々をより良く暮らせるために、家族やかかりつけ医など医療関係者と連携を図りながらチームで支援していく体制を整えている。あるいは、今後の変化に備えて検討や準備を行っている。	○	24時間医療機関連携可能でチームで支援していく体制を整えている。また今後の検討や準備を行っている。	/	/	/	
		f	家族等への心理的支援を行っている。(心情の理解、家族間の事情の考慮、精神面での支え等)	○	面会時に家族様としっかり話をする機会をもつようにしている。	/	/	/	
36	感染症予防と対応	a	職員は、感染症(ノロウイルス、インフルエンザ、白癬、疥癬、肝炎、MRSA等)や具体的な予防策、早期発見、早期対応策等について定期的に学んでいる。	○	勉強会や研修に参加し知識を深め全職員が認識できるよう記録に残している。	/	/	/	
		b	感染症に対する予防や対応の取り決めがあり、万が一、感染症が発生した場合に速やかに手順にそった対応ができるよう日頃から訓練を行うなどして体制を整えている。	◎	感染症に対するマニュアルを全職員が把握しすぐに対応できるようにしている。	/	/	/	
		c	保健所や行政、医療機関、関連雑誌、インターネット等を通じて感染症に対する予防や対策、地域の感染症発生状況等の最新情報を入手し、取り入れている。	○	メディアからの情報や広瀬クリニックからの感染流行の情報をきき、予防に努めている。	/	/	/	
		d	地域の感染症発生状況の情報収集に努め、感染症の流行に随時対応している。	○	感染症流行時期にはインターネット等で地域などを確認し早めに対策をとるようにしている。	/	/	/	
		e	職員は手洗いやうがいなど徹底して行っており、利用者や来訪者等についても清潔が保持できるよう支援している。	◎	こまめに手指消毒を行い感染予防を行っている。また来訪者にも手指消毒やマスクの着用をお願いしている。	/	/	/	

項目No.	評価項目	小項目	内容	自己評価	判断した理由・根拠	家族評価	地域評価	外部評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
II. 家族との支え合い									
37	本人とともに支え合う 家族との関係づくりと支援	a	職員は、家族を支援される一方の立場におかず、喜怒哀楽をともにし、一緒に本人を支えていく関係を築いている。	○	近況報告を行いながら家族様とコミュニケーションを多くとり、信頼関係を築いている。	/	/	/	毎月開催する食事会や花見会、納涼祭、文化祭等の行事を案内しており、行事終了後等に家族会を開催している。納涼祭は家族の協力を得て大規模に開催しており、利用者に喜ばれている。現在、近隣に在住する家族が多く、面会の頻度も多いが、疎遠な家族には、たよりを送付し電話でも話すなど、意思疎通を図っている。介護保険制度の変更や人事異動等事業所の報告は、運営推進会議等で行っているが、家族全員が把握するまでには至っていないため、周知方法を工夫するなど、今後の取組みに期待したい。家族の面会時に、職員は必ず声をかけ話しやすいよう雰囲気づくりに配慮し、利用者の様子を伝えたり、家族の要望等を聞くよう努めている。
		b	家族が気軽に訪れ、居心地よく過ごせるような雰囲気づくりや対応を行っている。(来やすい雰囲気、関係再構築の支援、湯茶の自由利用、居室への宿泊のしやすさ等)	○	家族様が気軽に訪れたり、会話が出来るような雰囲気作りを心がけて対応している。	/	/	/	
		c	家族がホームでの活動に参加できるように、場面や機会を作っている。(食事づくり、散歩、外出、行事等)	○	家族様が行事に参加できる機会を作り案内をしたり本人様の希望を伝え、散歩や外出の協力をお願いしている。	○	/	○	
		d	来訪する機会が少ない家族や疎遠になってしまっている家族も含め、家族の来訪時や定期的な報告などにより、利用者の暮らしぶりや日常の様子を具体的に伝えている。(「たより」の発行・送付、メール、行事等の録画、写真の送付等)	○	面会時には近況報告を行い来訪する機会が少ない家族様には本人様と電話で会話できるよう支援している。またヒロセだよりを発行し、行事での様子や写真を紹介している。	○	/	○	
		e	事業所側の一方的な情報提供ではなく、家族が知りたいことや不安に感じていること等の具体的内容を把握して報告を行っている。	○	家族様とコミュニケーションを図り、把握をした上で報告を行っている。	/	/	/	
		f	これまでの本人と家族との関係の理解に努め、より良い関係を築いていけるように支援している。(認知症への理解、本人への理解、適切な接し方・対応等についての説明や働きかけ、関係の再構築への支援等)	○	認知症の進行状態に合わせて接し方や対応の仕方についてその都度説明を行い、家族様に理解を得てより良い関係を築けるよう支援している。	/	/	/	
		g	事業所の運営上の事柄や出来事について都度報告し、理解や協力を得るようにしている。(行事、設備改修、機器の導入、職員の異動・退職等)	○	2ヶ月に1回運営会を実施し家族様にも参加して頂き報告している。	×	/	△	
		h	家族同士の交流が図られるように、様々な機会を提供している。(家族会、行事、旅行等への働きかけ)	○	お花見や他行事へ参加して頂き、交流できる機会を作っている。	/	/	/	
		i	利用者一人ひとりに起こり得るリスクについて家族等に説明し、抑圧感のない暮らしを大切にしたい対応策を話し合っている。	○	入居や契約時にしっかり説明をし支援内容を話し合っている。	/	/	/	
		j	家族が、気がかりなことや、意見、希望を職員に気軽に伝えたり相談したりできるように、来訪時の声かけや定期的な連絡等を積極的に行っている。	○	アンケートの実施や意見箱の設置を行い家族様の要望を確認したり、面会時や電話で相談できるよう積極的に声掛けを行っている。	/	/	○	
38	契約に関する説明と納得	a	契約の締結、解約、内容の変更等の際は、具体的な説明を行い、理解、納得を得ている。	○	契約時に理解を得ており、変更時には丁寧に説明し納得を得られるよう努めている。	/	/	/	
		b	退居については、契約に基づくとともにその決定過程を明確にし、利用者や家族等に具体的な説明を行った上で、納得のいく退居先に移れるように支援している。退居事例がない場合は、その体制がある。	○	退居時は家族様の意向もふまえて話し合い納得され退去されている。	/	/	/	
		c	契約時及び料金改定時には、料金の内訳を文書で示し、料金の設定理由を具体的に説明し、同意を得ている。(食費、光熱水費、その他の実費、敷金設定の場合の償却、返済方法等)	○	料金表を提示し、同意を得ている。	/	/	/	

項目No.	評価項目	小項目	内容	自己評価	判断した理由・根拠	家族評価	地域評価	外部評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
Ⅲ.地域との支え合い									
39	地域とのつきあいやネットワークづくり ※文言の説明 地域:事業所が所在する市町の日常生活圏域、自治会エリア	a	地域の人に対して、事業所の設立段階から機会をつくり、事業所の目的や役割などを説明し、理解を図っている。	○	地域の集まりなどを通じてグループホームの目的や役割を説明し、地域交流を行っている。	/	◎	/	定期的な保育園児との交流や、七夕会や敬老会などに訪れるボランティアとの交流の機会がある。公民館で行われる文化祭へ作品を出品し盆踊りや体育祭行事にも参加するなど、地域住民との交流が深められる機会を設け、利用者が地域とつながりながら生活できるよう支援している。
		b	事業所は、孤立することなく、利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、地域の人たちに対して日頃から関係を深める働きかけを行っている。(日常的なあいさつ、町内会・自治会への参加、地域の活動や行事への参加等)	○	散歩時地域の方への挨拶をはじめ地域の行事へも参加させていただいている。	/	○	◎	
		c	利用者を見守ったり、支援してくれる地域の人たちが増えている。	○	散歩時にあいさつをかわすが増えているかは不明である。	/	/	/	
		d	地域の人気が気軽に立ち寄り遊びに来たりしている。	○	地域の方と、散歩やひなたぼっこなどで交流されている。	/	/	/	
		e	隣近所の人と気軽に声をかけ合ったり、気軽に立ち寄ってもらうなど、日常的なおつきあいをしている。	○	外出や、散歩などで機会をとらえて地域の方々と交流している。	/	/	/	
		f	近隣の住民やボランティア等が、利用者の生活の拡がりや充実を図ることを支援してくれるよう働きかけを行っている。(日常的な活動の支援、遠出、行事等の支援)	○	ボランティアの方が隣の施設で踊ったりされるため、参加されている。	/	/	/	
		g	利用者一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している。	○	利用者様が豊かな生活を過ごせるよう努力している。	/	/	/	
		h	地域の人たちや周辺地域の諸施設からも協力を得ることができるよう、日頃から理解を拡げる働きかけや関係を深める取り組みを行っている(公民館、商店・スーパー・コンビニ、飲食店、理美容店、福祉施設、交番、消防、文化・教育施設等)。	○	公民館や地域の文化祭等参加できるよう日頃から働きかけ、盆踊りには多くの職員や家族様も参加している。又、買い物や外食等もしている。	/	/	/	
40	運営推進会議を活かした取り組み	a	運営推進会議には、毎回利用者や家族、地域の人等の参加がある。	○	毎回参加できている。	×	/	△	運営推進会議は、利用者や家族代表者、民生委員、婦人会、地区総代及び市職員等の参加を得ているが、会議内容は参加家族のみの理解にとどまっている感があるため、不参加の家族を含め会議内容を把握できるよう、議事録等の送付に努めて欲しい。会議は事業所の実情について理解を深めてもらう機会となっており、地域の情報や意見、助言を得られる場となっており、外部評価結果等について、意見交換を行い出された意見等を職員間で話し合い、運営に活かせるよう努めている。
		b	運営推進会議では、利用者やサービスの実績、評価への取り組み状況(自己評価・外部評価の内容、目標達成計画の内容と取り組み状況等)について報告している。	○	会議では外部評価の内容やアンケートの集計結果をまとめ報告している。	/	/	○	
		c	運営推進会議では、事業所からの一方的な報告に終わらず、会議で出された意見や提案等を日々の取り組みやサービス向上に活かし、その状況や結果等について報告している。	△	意見交換の場を設け質問に答えられるよう努力し、サービスの向上につながるものは取り組むよう努力している。	/	◎	○	
		d	テーマに合わせて参加メンバーを増やしたり、メンバーが出席しやすい日程や時間帯について配慮・工夫をしている。	○	担当者の公的行事がある場合は調整することもあるがあらかじめ決まった日時で実施している。	/	/	◎	
		e	運営推進会議の議事録を公表している。	○	観覧用のファイルに綴じ見て頂けるようにしている。	/	/	/	

項目No.	評価項目	小項目	内容	自己評価	判断した理由・根拠	家族評価	地域評価	外部評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
IV.より良い支援を行うための運営体制									
41	理念の共有と実践	a	地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、代表者、管理者、職員は、その理念について共通認識を持ち、日々の実践が理念に基づいたものになるよう日常的に取り組んでいる。	○	相手を思いやる和の心で誠意をもって接する理念の下、利用者様を主体としたサービスが提供できるよう取り組んでいる。	/	/	/	
		b	利用者、家族、地域の人たちにも、理念をわかりやすく伝えている。	○	理念は室内には貼り出しているが地域に伝えることはほとんどない。	△	○	/	
42	職員を育てる取り組み ※文言の説明 代表者：基本的には運営している法人の代表者であり、理事長や代表取締役が該当するが、法人の規模によって、理事長や代表取締役をその法人の地域密着型サービス部門の代表者として扱うのは合理的ではないと判断される場合、当該部門の責任者などを代表者として差し支えない。したがって、指定申請書に記載する代表者と異なることはありうる。	a	代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、計画的に法人内外の研修を受けられるよう取り組んでいる。	△	把握はできているが研修への参加は少ないように思われる。	/	/	/	代表者は、職員が働きながら子育てができる環境や職能手当の創設等、働きやすい労働環境の整備を行うほか、年1回ストレスチェックを実施するなど、職員のストレス軽減にも努めている。
		b	管理者は、OJT(職場での実務を通して行う教育・訓練・学習)を計画的に行い、職員が働きながらスキルアップできるよう取り組んでいる。	○	職員一人ひとりがスキルアップできるよう計画的に取り組んでいる。	/	/	/	
		c	代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている。	△	職員個々の努力や実績を把握し向上心を持って働けるように環境、条件の整備に努めたい。	/	/	/	
		d	代表者は管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互研修などの活動を通して職員の意識を向上させていく取り組みをしている。(事業者団体や都道府県単位、市町単位の連絡会などへの加入・参加)	○	グループホーム交流会へ参加し同業者同士の意見交換や新しい取り組み等向上心を持って働けるようにネットワークづくりしている。	/	/	/	
		e	代表者は、管理者や職員のストレスを軽減するための工夫や環境づくりに取り組んでいる。	○	介助方法を変えたり仕事の流れの見直しをしストレスの軽減を図っている。	○	◎	○	
43	虐待防止の徹底	a	代表者及び全ての職員は、高齢者虐待防止法について学び、虐待や不適切なケアに当たるのは具体的にどのような行為なのかを理解している。	○	虐待とは何かについての勉強会に参加し報告会や議事録を残し虐待行為につながらないように理解している。	/	/	/	職員は虐待防止の研修に参加し学ぶ機会があるほか、虐待防止マニュアルを作成し職員に周知しており、不適切なケア等に気づいた時の対応方法や手順等を理解し共有している。職員は不適切なケアや虐待につながる言葉遣いはないか、常日頃から注意を払いながら、日々の支援に努めている。
		b	管理者は、職員とともに日々のケアについて振り返ったり話し合ったりする機会や場をつくっている。	○	日々のケアの問題点や気づいた事等話し合うようにしている。	/	/	/	
		c	代表者及び全ての職員は、虐待や不適切なケアが見逃されることがないように注意を払い、これらの行為を発見した場合の対応方法や手順について知っている。	○	虐待や不適切なケアがないよう職員同士声掛けしケアに努めている。	/	/	◎	
		d	代表者、管理者は職員の疲労やストレスが利用者へのケアに影響していないか日常的に注意を払い、点検している。	○	利用者様への声掛けや態度に表れている時には速やかに改善するよう対応している。	/	/	/	
44	身体拘束をしないケアの取り組み	a	代表者及び全ての職員が「指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」や「緊急やむを得ない場合」とは何かについて正しく理解している。	○	禁止行為については理解している。	/	/	/	
		b	どのようなことが身体拘束に当たるのか、利用者や現場の状況に照らし合わせて点検し、話し合う機会をつくっている。	○	拘束になるケアとは理解した上で、自分達のケアはどうであるかは話し合う機会を作っている。	/	/	/	
		c	家族等から拘束や施錠の要望があっても、その弊害について説明し、事業所が身体拘束を行わないケアの取り組みや工夫の具体的内容を示し、話し合いを重ねながら理解を図っている。	○	入居時、家族様には拘束、施錠についての説明を行い理解を得てもらえるよう話し合いを重ねお願している。	/	/	/	

項目No.	評価項目	小項目	内容	自己評価	判断した理由・根拠	家族評価	地域評価	外部評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
45	権利擁護に関する制度の活用	a	管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学び、それぞれの制度の違いや利点などを含め理解している。	△	研修には参加しているが十分に理解できていないところがある。				
		b	利用者や家族の現状を踏まえて、それぞれの制度の違いや利点なども含め、パンフレット等で情報提供したり、相談にのる等の支援を行っている。	△	制度については話したりすることはほとんどないが相談にのることはある。				
		c	支援が必要な利用者が制度を利用できるよう、地域包括支援センターや専門機関(社会福祉協議会、後見センター、司法書士等)との連携体制を築いている。	○	相談があれば専門機関へ確認をとり協力できるよう努めている。				
46	急変や事故発生時の備え・事故防止の取り組み	a	怪我、骨折、発作、のど詰まり、意識不明等利用者の急変や事故発生時に備えて対応マニュアルを作成し、周知している。	◎	緊急対応マニュアルを作成しており電話の横に貼り周知できるようにしている。				
		b	全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている。	○	勉強会や研修を行い定期的に訓練している。				
		c	事故が発生した場合の事故報告書はもとより、事故の一手手前の事例についてもヒヤリハットにまとめ、職員間で検討するなど再発防止に努めている。	○	議事録を作成し対策をパソコンに入力し職員間での情報共有を図り再発防止に努めている。				
		d	利用者一人ひとりの状態から考えられるリスクや危険について検討し、事故防止に取り組んでいる。	◎	毎日申し送りを行い一人ひとりの状態について職員で話し合い必要に応じた事故防止を行っている。				
47	苦情への迅速な対応と改善の取り組み	a	苦情対応のマニュアルを作成し、職員はそれを理解し、適宜対応方法について検討している。	○	苦情があれば迅速に対応し議事録にまとめ周知している。				
		b	利用者や家族、地域等から苦情が寄せられた場合には、速やかに手順に沿って対応している。また、必要と思われる場合には、市町にも相談・報告等している。	○	受付窓口を設置し相談担当者が処理にあたり手順に沿って対応している。				
		c	苦情に対しての対策案を検討して速やかに回答するとともに、サービス改善の経過や結果を伝え、納得を得ながら前向きな話し合いと関係づくりを行っている。	○	相談担当者が対応し問題点を把握・検討し結果を報告し理解が得られるよう努めている。				
48	運営に関する意見の反映	a	利用者が意見や要望、苦情を伝えられる機会をつくっている。(法人・事業所の相談窓口、運営推進会議、個別に訊く機会等)	○	2ヶ月に1回運営推進会議を行っており利用者様の参加を得ている			○	利用者からは、日常会話の中で要望を聞き取るほか、介護計画更新時に時間を設けて意向を確認している。家族からは、運営推進会議や家族会で意見や要望を把握するよう努めている。管理者は日常業務に従事しているため、職員との接点は多く、意見や提案を把握し、日頃のケアに活かせるよう話し合う機会を設けている。
		b	家族等が意見や要望、苦情を伝えられる機会をつくっている。(法人・事業所の相談窓口、運営推進会議、家族会、個別に訊く機会等)	○	家族会や運営推進会議で意見や要望を聞けるようにしている。	◎		○	
		c	契約当初だけではなく、利用者・家族等が苦情や相談ができる公的な窓口の情報提供を適宜行っている。	○	玄関先に意見箱を設置し対応している。				
		d	代表者は、自ら現場に足を運ぶなどして職員の意見や要望・提案等を直接聞く機会をつくっている。	○	全体会議に出席し意見や要望を聞いている。				
		e	管理者は、職員一人ひとりの意見や提案等を聴く機会を持ち、ともに利用者本位の支援をしていくための運営について検討している。	○	月に一度の全体会議を実施し意見をお互いに話し合う機会を設けている。				

愛媛県グループホーム ヒロセドゥーエ

項目No.	評価項目	小項目	内容	自己評価	判断した理由・根拠	家族評価	地域評価	外部評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
49	サービス評価の取り組み	a	代表者、管理者、職員は、サービス評価の意義や目的を理解し、年1回以上全員で自己評価に取り組んでいる。	○	年2回全員が自己評価記入し提出している。	/	/	/	外部評価の結果は、運営推進会議で報告して参加者から意見や助言を得ているが、取り組みのモニターをしてもらうまでには至っていないため、今後参加者に取り組みのモニターを依頼するなど、事業所のサービス向上につながるよう努めて欲しい。
		b	評価を通して事業所の現状や課題を明らかにするとともに、意識統一や学習の機会として活かしている。	○	合同ミーティングを行い意識統一に活かしている。	/	/	/	
		c	評価(自己・外部・家族・地域)の結果を踏まえて実現可能な目標達成計画を作成し、その達成に向けて事業所全体で取り組んでいる。	○	評価を踏まえてより一層の向上を目指し目標に取り組んでいる。	/	/	/	
		d	評価結果と目標達成計画を市町、地域包括支援センター、運営推進会議メンバー、家族等に報告し、今後の取り組みのモニターをしてもらっている。	○	評価記録とそれに基づいた目標達成評価を作成し取り組んでいる。	×	○	△	
		e	事業所内や運営推進会議等にて、目標達成計画に掲げた取り組みの成果を確認している。	○	目標達成計画内容に基づく取り組みや成果を確認している。	/	/	/	
50	災害への備え	a	様々な災害の発生を想定した具体的な対応マニュアルを作成し、周知している。(火災、地震、津波、風水害、原子力災害等)	○	対応マニュアルを作成し周知している。	/	/	/	事業所周辺には法人が運営する複数の事業所があり、災害発生時に協力し合える環境にある。近隣防災協定を締結しているが、地域の防災訓練に参加したことがないため、避難訓練に参加するなど、地域との協力関係の構築に努めて欲しい。
		b	作成したマニュアルに基づき、利用者が、安全かつ確実に避難できるよう、さまざまな時間帯を想定した訓練を計画して行っている。	◎	定期的さまざな時間帯を想定し訓練を行っている。	/	/	/	
		d	消火設備や避難経路、保管している非常用食料・備品・物品類の点検等を定期的に行っている。	○	避難経路図を貼り出し、備品の設置場所も決めている。	/	/	/	
		e	地域住民や消防署、近隣の他事業所等と日頃から連携を図り、合同の訓練や話し合う機会をつくるなど協力・支援体制を確保している。	○	地元の国分地域の総代様の協力も得て防災訓練に参加して頂いている。	×	○	△	
		f	災害時を想定した地域のネットワークづくりに参加したり、共同訓練を行うなど、地域の災害対策に取り組んでいる。(県・市町、自治会、消防、警察、医療機関、福祉施設、他事業所等)	○	災害時を想定した共同訓練を行い、隣接の老健、病院法人グループ等とも提携し地域の災害対策に取り組んでいる。	/	/	/	
51	地域のケア拠点としての機能	a	事業所は、日々積み上げている認知症ケアの実践力を活かして地域に向けて情報発信したり、啓発活動等に取り組んでいる。(広報活動、介護教室等の開催、認知症サポーター養成研修や地域の研修・集まり等での講師や実践報告等)	△	運営推進会議において情報発信を行えている。	/	/	/	地域からの相談対応が不十分な感があるため、事業所のPRに努めるなど、地域からの相談ニーズの集約に努めて欲しい。地域住民に信頼される事業所として法人全体で積み上げてきた実績があり、関係機関との連携も密に取れているが、地域の関係機関等との共同イベントを実施するまでには至っていないため、今後は関係機関等と連絡を取り合い、地域活動等にも積極的に取り組むなど、地域住民からさらに頼られる事業所になるよう努めることが望まれる。
		b	地域の高齢者や認知症の人、その家族等への相談支援を行っている。	○	相談があれば丁寧に答え支援できるよう努めている。	/	△	△	
		c	地域の人たちが集う場所として事業所を解放、活用している。(サロン・カフェ・イベント等交流の場、趣味活動の場、地域の集まりの場等)	○	大きなイベントがあれば地域へ呼びかけ参加して頂けるよう開放している。	/	/	/	
		d	介護人材やボランティアの養成など地域の人材育成や研修事業等の実習の受け入れに協力している。	◎	介護者養成教育のために実習生の受け入れ協力している。	/	/	/	
		e	市町や地域包括支援センター、他の事業所、医療・福祉・教育等各関係機関との連携を密にし、地域活動を協働しながら行っている。(地域イベント、地域啓発、ボランティア活動等)	○	地域イベント、保育所とも交流があり地域活動を出来る限り協力し行っている。	/	/	△	

(別表第1)

サービス評価結果表

サービス評価項目

(評価項目の構成)

I. その人らしい暮らしを支える

- (1) ケアマネジメント
- (2) 日々の支援
- (3) 生活環境づくり
- (4) 健康を維持するための支援

II. 家族との支え合い

III. 地域との支え合い

IV. より良い支援を行うための運営体制

ホップ 職員みんなで自己評価!
 ステップ 外部評価でブラッシュアップ!!
 シャンプ 評価の公表で取組み内容をPR!!!

ーサービス向上への3ステップー
 “愛媛県地域密着型サービス評価”

【外部評価実施評価機関】※評価機関記入

評価機関名	社会福祉法人 愛媛県社会福祉協議会
所在地	愛媛県松山市持田町三丁目8番15号
訪問調査日	平成31年2月20日

【アンケート協力数】※評価機関記入

家族アンケート	(回答数) 12名	(依頼数) 18名
地域アンケート回答数	4名	

※事業所記入

事業所番号	3890200342
事業所名	グループホーム ヒロセドゥーエ
(ユニット名)	チェリー
記入者(管理者)	
氏名	渡邊 優紀
自己評価作成日	平成31年1月1日

<p>【事業所理念】 相手を思いやる「和」の心と利用者様に「誠意」をもって接する。</p>	<p>【前回の目標達成計画で取り組んだこと・その結果】 家族等の意見や要望について、普段の様子や変化等の話しやすい環境を作り、意見や要望を言いやすいような関係作りに努めている。</p>	<p>【今回、外部評価で確認した事業所の特徴】 事業所は田園地帯の中に立地し、老人保健施設等を併設している。地域関係機関と連携し、イベント等にも積極的に取り組むなど、住民に信頼される事業所として積み上げてきた実績がある。医療機関が母体である利点を活かして、24時間医療体制を整備し、看取りケアにも取り組んでいる。職員は、利用者がこれまでの生活習慣を維持し、自分のペースに合わせて自由に過ごせるよう支援している。保育園児やボランティアの人々との交流、公民館の文化祭や地元盆踊り等の地域行事にも積極的に参加し地域住民とも交流するなど、事業所の良さを活かし、研修等により研さんを積み重ねサービスの向上を目指している事業所である。</p>
---	--	---

評価結果表

項目No.	評価項目	小項目	内容	自己評価	判断した理由・根拠	家族評価	地域評価	外部評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
I. その人らしい暮らしを支える									
(1) ケアマネジメント									
1	思いや暮らし方の希望、意向の把握	a	利用者一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。	○	アセスメントや日々の関わりの中から思いや意向を把握できる様にしている。	○	/	○	日常の会話や関わりの中から思いや意向を把握するよう努めており、意思疎通が困難な利用者は、表情や行動で推測し、家族にも確認することで把握している。
		b	把握が困難な場合や不確かな場合は、「本人はどうか」という視点で検討している。	○	本人様の表情や行動等からどう思っているか検討している。	/	/	/	
		c	職員だけでなく、本人をよく知る人(家族・親戚・友人等)とともに、「本人の思い」について話し合っている。	○	入居前や面会時に本人様の様子を話したり、どうしたいのが等話し合っている。	/	/	/	
		d	本人の暮らし方への思いを整理し、共有化するための記録をしている。	○	3ヶ月ごとに気持ちシートを作成している。	/	/	/	
		e	職員の思い込みや決めつけにより、本人の思いを見落とさないように留意している。	○	普段から本人様の行動や表情等をみながら本人様の思いを大切にしている。	/	/	/	
2	これまでの暮らしや現状の把握	a	利用者一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、こだわりや大切にしてきたこと、生活環境、これまでのサービス利用の経過等、本人や本人をよく知る人(家族・親戚・友人等)から聞いている。	○	入居前や入居時に本人様や家族様から生活歴等聞き、あの頃シートに記入している。	/	/	○	入居時に利用者や家族から情報を収集すると共に、関係機関や以前利用していた事業所から得た情報をフェイスシートに記録している。入居後も丁寧に生活歴を聞き取り、「あの頃シート」に記載し職員全員で共有し有効に活用している。
		b	利用者一人ひとりの心身の状態や有する力(わかること・できること・できそうなこと等)等の現状の把握に努めている。	○	日々利用者様の状態等話し合ったり変わった事等あれば、記録に残している。	/	/	/	
		c	本人がどのような場所や場面で安心したり、不安になったり、不安定になったりするかを把握している。	○	不安になったり安心した事は記録に残し申し送りをし、情報共有し把握している。	/	/	/	
		d	不安や不安定になっている要因が何かについて、把握に努めている。(身体面・精神面・生活環境・職員のかかわり等)	○	不安になった時は傾聴し、本人に要因を確認したりして把握に努めている。	/	/	/	
		e	利用者一人ひとりの一日の過ごし方や24時間の生活の流れ・リズム等、日々の変化や違いについて把握している。	○	ケア実施記録に1日の流れを記入している。変化があれば伝達している。	/	/	/	
3	チームで行うアセスメント(※チームとは、職員のみならず本人・家族・本人をよく知る関係者等を含む)	a	把握した情報をもとに、本人が何を求め必要としているのかを本人の視点で検討している。	○	本人様の話から情報を引き出し、面会時には何を必要としているかを話し合っている。	/	/	○	利用者の思いや意向など把握した情報をもとに、今何がしたいのか、何を望んでいるのかを盛り込みながら、利用者の視点で生活課題を検討し、馴染みの暮らしが継続できるよう支援している。
		b	本人がより良く暮らすために必要な支援とは何かを検討している。	○	本人の希望を大事にして、できる事について話し合っている。	/	/	/	
		c	検討した内容に基づき、本人がより良く暮らすための課題を明らかにしている。	○	より良く暮らせるよう話し合いをしている。	/	/	/	

項目No.	評価項目	小項目	内容	自己評価	判断した理由・根拠	家族評価	地域評価	外部評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
4	チームでつくる本人がより良く暮らすための介護計画	a	本人の思いや意向、暮らし方が反映された内容になっている。	○	本人の意向を確認し、アセスメントを作成し反映できる様努めている。	/	/	/	サービス担当者会議に家族が参加できるよう案内し、利用者と家族を交えて介護計画の内容について話し合い、情報を共有しながら意見等を反映し介護計画の作成に努めている。
		b	本人がより良く暮らすための課題や日々のケアのあり方について、本人、家族等、その他関係者等と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映して作成している。	○	3ヶ月に1回カンファレンスを実施している。日々の様子やケアについて報告し、本人、家族の意見を反映できるよう話し合っている。	○	/	○	
		c	重度の利用者に対しても、その人が慣れ親しんだ暮らし方や日々の過ごし方ができる内容となっている。	○	本人様、家族から昔の話や、意向を聞き、慣れ親しんだ安心できる生活ができるようにしている。	/	/	/	
		d	本人の支え手として家族等や地域の人たちとの協力体制等が盛り込まれた内容になっている。	○	地域の人との協力体制は十分にとれてはいないが家族様とは状態等話し協力できている。	/	/	/	
5	介護計画に基づいた日々の支援	a	利用者一人ひとりの介護計画の内容を把握・理解し、職員間で共有している。	○	介護計画を記入しケア実施記録のファイルにはめて、いつでも把握できる様にしている。	/	/	○	3か月毎にケアカンファレンスを実施し、介護計画の内容を理解し共有している。介護計画は個別ファイルに綴じられ、日々内容を確認しながら支援を行い、実施状況を記録しモニタリングに反映させている。利用者一人ひとりの言葉や行動、職員の気づきや提案等を個別に記録し、共有するよう努めている。
		b	介護計画にそってケアが実践できたか、その結果どうだったかを記録して職員間で状況確認を行うとともに、日々の支援につなげている。	○	ケア実施記録に実施状況を記入し、実施できていない時はできる様にしている。	/	/	○	
		c	利用者一人ひとりの日々の暮らしの様子(言葉・表情・しぐさ・行動・身体状況・エピソード等)や支援した具体的内容を個別に記録している。	○	ケース記録に、言葉や行動、支援した内容等を記録している。	/	/	○	
		d	利用者一人ひとりについて、職員の気づきや工夫、アイデア等を個別に記録している。	○	気づいた事があれば申し送ったり、気づきシートに記入している。	/	/	○	
6	現状に即した介護計画の見直し	a	介護計画の期間に応じて見直しを行っている。	○	3ヶ月前後に1回見直している。状態変化等あれば都度見直している。	/	/	○	介護計画は3か月毎に見直している。利用者の状態に変化が見られない場合も、毎月担当職員がモニタリングを実施し、現状を確認するよう努めている。状態に変化があった場合は、その都度利用者や家族を交えてサービス担当者会議を開催し、介護計画の見直しを行い現状に即した介護計画の作成に努めている。
		b	新たな要望や変化がみられない場合も、月1回程度は現状確認を行っている。	○	経過シート、モニタリングを実施して、現状確認している。	/	/	○	
		c	本人の心身状態や暮らしの状態に変化が生じた場合は、随時本人、家族等、その他関係者等と見直しを行い、現状に即した新たな計画を作成している。	○	状態変化があれば随時話し合い計画の見直しを行っている。	/	/	○	
7	チームケアのための会議	a	チームとしてケアを行う上での課題を解決するため、定期的、あるいは緊急案件がある場合にはその都度会議を開催している。	○	状態変化等あれば都度話し合いを行っている。	/	/	◎	毎月定期的に行う会議や3か月毎のカンファレンスで話し合うと共に、緊急時はその都度関係者が集まり検討している。会議で話し合われた内容は、申し送りノートや伝達ノートに記載し、チェック表に捺印し確認しており、参加できない職員も含め、職員全員の情報共有に努めている。
		b	会議は、お互いの情報や気づき、考え方や気持ちを率直に話し合い、活発な意見交換ができるよう雰囲気や場づくりを工夫している。	○	情報や気づき等皆で良いケアができる様話合っている。	/	/	/	
		c	会議は、全ての職員を参加対象とし、可能な限り多くの職員が参加できるよう開催日時や場所等、工夫している。	○	参加できる職員で行っているが内容は皆が把握できる様にしている。	/	/	/	
		d	参加できない職員がいた場合には、話し合われた内容を正確に伝えるしくみをつくっている。	○	申し送り、伝達ノートに記入し、皆が把握できている。	/	/	◎	
8	確実な申し送り、情報伝達	a	職員間で情報伝達すべき内容と方法について具体的に検討し、共有できるしくみをつくっている。	○	朝礼時、出勤時申し送りをしている。変わった事等があれば伝達ノートにも記入している。	/	/	◎	職員が共有すべき情報は、申し送りノートや伝達ノート等を活用し伝達するなど、情報が確実に共有できるよう工夫している。
		b	日々の申し送りや情報伝達を行い、重要な情報は全ての職員に伝わるようにしている。(利用者の様子・支援に関する情報・家族とのやり取り・業務連絡等)	○	変わった事や、重要な事は申し送りに行い伝達ノートにも記入し、皆が把握できるようにしている。	○	/	/	

項目No.	評価項目	小項目	内容	自己評価	判断した理由・根拠	家族評価	地域評価	外部評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
(2) 日々の支援									
9	利用者一人ひとりの思い、意向を大切に支援	a	利用者一人ひとりの「その日したいこと」を把握し、それを叶える努力を行っている。	○	利用者様にしたい事を聞き希望にそえるよう努力している。	/	/	/	毎日着る服は、利用者一人ひとりの能力等を考慮しながら好みのものを自分で選択できるよう支援している。職員は利用者が何をすれば喜ぶのかを把握し、笑顔で過ごしてもらえるよう声かけに工夫するなど、雰囲気づくりに努めている。
		b	利用者が日々の暮らしの様々な場面で自己決定する機会や場をつくっている。(選んでもらう機会や場をつくる、選ぶのを待っている等)	○	できるだけ自己解決できるようにしている。難しい方にも声かけし思いを確認している。	/	/	○	
		c	利用者が思いや希望を表せるように働きかけたり、わかる力に合わせた支援を行うなど、本人が自分で決めたり、納得しながら暮らせるよう支援している。	○	思いを伝えられる様声掛け関わっている。納得した暮らしができる様努力している。	/	/	/	
		d	職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースや習慣を大切に支援を行っている。(起床・就寝、食事・排泄・入浴等の時間やタイミング・長さ等)	○	本人のペースで生活できる様習慣等も把握し、声かけ等行っている。	/	/	/	
		e	利用者の生き活きた言動や表情(喜び・楽しみ・うるおい等)を引き出す言葉がけや雰囲気づくりをしている。	○	利用者様が生き活きと生活できるよう、明るい雰囲気作りを心がけている。	/	/	○	
		f	意思疎通が困難で、本人の思いや意向がつかめない場合でも、表情や全身での反応を注意深くキャッチしながら、本人の意向にそった暮らしができるよう支援している。	○	表情や行動等から本人の思いを汲み取り、意向にそった暮らしができる様努力している。	/	/	/	
10	一人ひとりの誇りやプライバシーを尊重した関わり	a	職員は、「人権」や「尊厳」とは何かを学び、利用者の誇りやプライバシーを大切に言葉かけや態度等について、常に意識して行動している。	○	毎月行っている勉強会等でプライバシーや個々の尊厳等について学び、利用者様一人一人に対応した言葉かけを行っている。	○	○	○	職員は、人権や尊厳について内部研修で学ぶ機会があり、利用者の誇りやプライバシーを損なう言動がないよう留意し日々の支援に努めている。利用者目線を合わせるなど、さりげなく穏やかな声かけに努めており、居室には必ずノックし声をかけてから入室している。
		b	職員は、利用者一人ひとりに対して敬意を払い、人前であからさまな介護や誘導の声かけをしないよう配慮しており、目立たずさりげない言葉がけや対応を行っている。	△	常に利用者様への気配りや丁寧な言葉かけを常に意識しているが、人前でも声かけの配慮が出来ていない事がある。	/	/	○	
		c	職員は、排泄時や入浴時には、不安や羞恥心、プライバシー等に配慮ながら介助を行っている。	○	同性介助を心がけ利用者様の不安や羞恥心、プライバシーの配慮を行っている。	/	/	/	
		d	職員は、居室は利用者専用の場所であり、プライバシーの場所であることを理解し、居室への出入りなど十分配慮しながら行っている。	○	居室への入室の際には必ずノックをし利用者様の承諾を得た後入室を行っている。	/	/	○	
		e	職員は、利用者のプライバシーの保護や個人情報漏えい防止等について理解し、遵守している。	○	利用者様のプライバシーや個人情報保護を十分理解し外部での漏えいを防止している。	/	/	/	
11	ともに過ごし、支え合う関係	a	職員は、利用者を介護される一方の立場におかず、利用者に助けってもらったり教えてもらったり、互いに感謝し合うなどの関係性を築いている。	○	生活の中で洗濯物を干したり、片付ける等利用者様に負担にならないよう一緒に行ったり、行事等でも互いに助け合いながら実施を行っている。	/	/	/	職員は、利用者同士の人間関係を把握してトラブルにならないよう寄り添い、場合によっては仲介するなど、利用者がお互いを労わり支え合えるよう支援している。
		b	職員は、利用者同士がともに助け合い、支え合って暮らしていくことの大切さを理解している。	○	共同生活をすることで互いの理解や助け合いの大切さを理解し、交流する時間を作る等している。	/	/	/	
		c	職員は、利用者同士の関係を把握し、トラブルになったり孤立したりしないよう、利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている。(仲の良い利用者同士が過ごせる配慮をする、孤立しがちな利用者が交わえる機会を作る、世話役の利用者にうまく力を発揮してもらう場面をつくる等)。	○	利用者様同士の関係を常に把握し、トラブル等おきかないよう、テーブルの配置や座席を変える等工夫を行っている。孤立しがちな利用者様が出来ないよう交流する機会をつくっている。	/	/	○	
		d	利用者同士のトラブルに対して、必要な場合にはその解消に努め、当事者や他の利用者に不安や支障を生じさせないようにしている。	○	トラブルの際には当事者の間に入り互いの話を聞く等トラブル解消に努めている。	/	/	/	

項目No.	評価項目	小項目	内容	自己評価	判断した理由・根拠	家族評価	地域評価	外部評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
12	馴染みの人や場との関係継続の支援	a	これまで支えてくれたり、支えてきた人など、本人を取り巻く人間関係について把握している。	○	入居時に家族様やご本人様より基本情報を収集し、職員間で共有し把握を行っている。	/	/	/	
		b	利用者一人ひとりがこれまで培ってきた地域との関係や馴染みの場所などについて把握している。	○	知人や友人、馴染みの場所等についても基本情報として収集し、職員間で共有し把握を行っている。	/	/	/	
		c	知人や友人等に会いに行ったり、馴染みの場所に出かけていくなど本人がこれまで大切にしてきた人や場所との関係が途切れないよう支援している。	○	知人や友人が面会に気安い雰囲気作りをし家族様へも伝えている。ドライブレクでは馴染みの場所や思い出の場所へ出かけたりしている。	/	/	/	
		d	家族、知人、友人等、本人の馴染みの人たちが、いつでも気軽に訪れ、居心地よく過ごせるよう工夫している。	○	家族や友人等馴染みのある人との関係を大切にし訪れやすい環境作りを行っている。	/	/	/	
13	日常的な外出支援	a	利用者が、1日中ホームの中で過ごすことがないよう、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう取り組んでいる。(職員側の都合を優先したり、外出する利用者、時間帯、行き先などが固定化していない)(※重度の場合は、戸外に出て過ごすことも含む)	○	利用者様の希望に沿って施設周辺を散歩したり、外気浴やレクを行う等気分転換が図れるよう工夫している。月に2回ドライブレクも実施している。	○	○	○	天気の良い日は事業所周辺の田園を散歩したり、利用者の希望を聞きながら、月2回計画的にドライブに出かけている。重度の利用者も福祉車両を活用し遠出したり、中庭に出て外気浴を行ったりすることで気分転換が図れるよう支援している。
		b	地域の人やボランティア、認知症サポーター等の協力も得ながら、外出支援をすすめている。	△	地域の保育所や公民館へ出向いたり、夏祭り等行事を通じて交流を図っている。	/	/	/	
		c	重度の利用者も戸外で気持ち良く過ごせるよう取り組んでいる。	○	中庭での外気浴をする等外で過ごす時間をつくっている。	/	/	○	
		d	本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら、普段は行けないような場所でも出かけられるように支援している。	○	家族様同行での外出や外泊を行っている。	/	/	/	
14	心身機能の維持、向上を図る取り組み	a	職員は認知症や行動・心理症状について正しく理解しており、一人ひとりの利用者の状態の変化や症状を引き起こす要因をひもとき、取り除くケアを行っている。	○	職員の知識・技術の向上を目指し周辺症状への解決の話し合いや一人ひとりに応じたケアを心がけている。	/	/	/	日課の中に様々な体操を取り入れたり、歌や趣味活動を行ったりすることで利用者が楽しめるよう支援している。利用者一人ひとりの持っている能力を把握し、過剰な介護にならないよう職員が見守りながら支援している。
		b	認知症の人の身体面の機能低下の特徴(筋力低下・平衡感覚の悪化・排泄機能の低下・体温調整機能の低下・嚥下機能の低下等)を理解し、日常生活を営む中で自然に維持・向上が図れるよう取り組んでいる。	○	毎朝リハビリ体操を実施し、個別で下肢運動を実施する等身体能力低下に努め、食前には嚥下体操を行っている。	/	/	/	
		c	利用者の「できること、できそうなこと」については、手や口を極力出さずに見守ったり一緒に行うようにしている。(場面づくり、環境づくり等)	○	利用者様の残存機能を活かせるよう個々のレベルを見極め残存機能の維持につながるようチームケアに努めている。	○	/	○	
15	役割、楽しみごと、気晴らしの支援	a	利用者一人ひとりの生活歴、習慣、希望、有する力等を踏まえて、何が本人の楽しみごとや役割、出番になるのかを把握している。	○	利用者様一人ひとりの好きな事や楽しみとこを把握するよう心掛け、ケアプランに盛り込んでいる。	/	/	/	利用者の特技や趣味を把握して、趣味活動が継続できるよう支援している。食器を洗うことや野菜の下ごしらえを手伝うことなど、利用者それぞれに役割を担ってもらえるよう努めている。
		b	認知症や障害のレベルが進んでも、張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、日常的に、一人ひとりの楽しみごとや役割、出番をつくる取り組みを行っている。	○	個々のレベルを把握した上で、出来る事から取り組めるよう、声掛けや支援を行っている。	◎	○	○	
		c	地域の中で役割や出番、楽しみ、張り合いが持てるよう支援している。	○	地域行事への参加や同地区の保育園児とも交流を図っている。	/	/	/	

項目No.	評価項目	小項目	内容	自己評価	判断した理由・根拠	家族評価	地域評価	外部評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
16	身だしなみやおしゃれの支援	a	身だしなみを本人の個性、自己表現の一つととらえ、その人らしい身だしなみやおしゃれについて把握している。	○	利用者様と共に本人様好みの衣類選びや化粧時も手助けを行っている。	/	/	/	毎日化粧をする習慣のある利用者に対し、家族から化粧品を預かって化粧ができるよう支援し、衣服の汚れに気づいた時はそれとなく更衣してもらうよう配慮している。重度な状態であっても、好みの服装に着替えるなど、身だしなみを整え、その人らしさが保てるよう支援している。
		b	利用者一人ひとりの個性、希望、生活歴等に応じて、髪形や服装、持ち物など本人の好みに整えられるように支援している。	○	必要に応じて助言や本人様の好みに沿うよう支援を行っている。	/	/	/	
		c	自己決定がしにくい利用者には、職員と一緒に考えたりアドバイスする等本人の気持ちにそって支援している。	○	個々のペースに応じた声掛けをする等、各利用者様にあった支援を行っている。	/	/	/	
		d	外出や年中行事等、生活の彩りにあわせてその人らしい服装を楽しめるよう支援している。	○	外出時は家族様に服を指定して頂いたり本人様に選んで頂く等おしゃれを楽しんでもらっている。	/	/	/	
		e	整容の乱れ、汚れ等に対し、プライドを大切にさりげなくカバーしている。(髭、着衣、履き物、食べこぼし、口の周囲等)	○	汚れや乱れ等気付いた時点でそと居室にて着替える様心がけている。	○	○	○	
		f	理容・美容は本人の望む店に行けるように努めている。	○	利用者様、家族様同意のもと月2回美容の実施、また昔から顔なじみの店でも行えるよう便宜を図っている。	/	/	/	
		g	重度な状態であっても、髪形や服装等本人らしさが保てる工夫や支援を行っている。	○	可能な限り、朝夕の着替えを行っている。	/	/	○	
17	食事を楽しむことのできる支援	a	職員は、食事の一連のプロセスの意味や大切さを理解している。	○	個人に合わせた食事形態で提供している。	/	/	/	職員は野菜の下ごしらえや後片付けを利用者と一緒に行い、料理を教えるなど協力して台所仕事をしている。管理栄養士と話し合い、献立に利用者の好みを反映させたり、季節ごとの行事食を取り入れたりし、月1回の食事会では、一緒に買い物に出かけ利用者が希望する料理を作っている。茶碗や湯呑などは、利用者専用の使い勝手のいい食器を使用している。職員も利用者と同じ食卓を囲み、見守りながら食事している。重度の利用者にも、食事を楽しんでもらえるよう職員が横に座りメニューの話をするなど雰囲気づくりに努めている。管理栄養士が、バランスよく栄養が摂れるよう考慮して献立を作成するほか、毎日利用者の食事を記録し、場合によっては、利用者の栄養バランスについて話し合うようにしている。
		b	買い物や献立づくり、食材選び、調理、後片付け等、利用者とともにやっている。	○	利用者様の希望を尊重しメニューを考えている。片付け等は出来ることをしてもらっている。	/	/	○	
		c	利用者とともに買い物、調理、盛り付け、後片付けをする等を行うことで、利用者の力の発揮、自信、達成感につなげている。	○	食器やテーブルを拭いたり、食器すすぎなどを手伝ってもらっている。	/	/	/	
		d	利用者一人ひとりの好きなものや苦手なもの、アレルギーの有無などについて把握している。	○	利用者様の好み等を把握している。	/	/	/	
		e	献立づくりの際には、利用者の好みや苦手なもの、アレルギー等を踏まえつつ、季節感を感じさせる旬の食材や、利用者にとって昔なつかしいもの等を取り入れている。	◎	毎日メニューが変わり、法人の管理栄養士の指示のもとでバランスのよい食事を提供している。季節に合わせた食材も使用している。	/	/	○	
		f	利用者一人ひとりの咀嚼・嚥下等の身体機能や便秘・下痢等の健康状態にあわせた調理方法としつつ、おいしそうな盛り付けの工夫をしている。(安易にミキサー食や刻み食で対応しない、いろどりや器の工夫等)	○	利用者様の嚥下機能を把握し食べやすいように一口大に切る。消化不良を起こしやすい方にはキザミで提供している。	/	/	/	
		g	茶碗や湯飲み、箸等は使い慣れたもの、使いやすいものを使用している。	◎	利用者様が使用していた箸やお茶碗等を使用している。	/	/	◎	
		h	職員も利用者と同じ食卓を囲んで食事を一緒に食べながら一人ひとりの様子を見守り、食事のペースや食べ方の混乱、食べこぼしなどに対するサポートをさりげなく行っている。	◎	利用者様と一緒に食事を行っている。介助が必要な方には隣に座り、援助を行っている。	/	/	◎	
		i	重度な状態であっても、調理の音やにおい、会話などを通して利用者が食事が待ち遠しくおいしく味わえるよう、雰囲気づくりや調理に配慮している。	○	重度の方にも、当日のメニューを伝えたり、旬の食材の話をするなど食欲を促すよう関わりを持っている。	○	/	○	
		j	利用者一人ひとりの状態や習慣に応じて食べれる量や栄養バランス、カロリー、水分摂取量が1日を通じて確保できるようにしている。	◎	法人の管理栄養士によって献立を立てている。摂取量少なめの方には声掛けや介助を行っている。	/	/	/	
		k	食事が少なかったり、水分摂取量の少ない利用者には、食事の形態や飲み物の工夫、回数やタイミング等工夫し、低栄養や脱水にならないよう取り組んでいる。	○	キザミや一口大に切るなど食事形態を変更し、水分を摂らない方にはご家族様に協力を得て好みの飲み物を提供している。	/	/	/	
l	職員で献立のバランス、調理方法などについて定期的話し合い、偏りがないように配慮している。場合によっては、栄養士のアドバイスを受けている。	◎	法人の管理栄養士により1日の食事バランスを考えた献立を立て、偏りなく対応している。	/	/	◎			
m	食中毒などの予防のために調理用具や食材等の衛生管理を日常的に行い、安全で新鮮な食材の使用と管理に努めている。	○	3回分の食材をその都度受け取り衛生管理に努めている。手指消毒を徹底して行っている。	/	/	/			

項目No.	評価項目	小項目	内容	自己評価	判断した理由・根拠	家族評価	地域評価	外部評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
18	口腔内の清潔保持	a	職員は、口腔ケアが誤嚥性肺炎の防止につながることを知っており、口腔ケアの必要性、重要性を理解している。	○	口腔ケアの重要性を理解している。食後の口腔ケアでは介助必要な方はサポートを行い清潔に努めている。	/	/	/	職員は口腔ケアの重要性を認識しており、毎食後の口腔ケアと毎日の義歯洗浄を行っている。協力医による定期的な訪問歯科診療のほか、職員が毎食後に利用者個々の口腔ケアを実施し、口腔内の健康状態を把握し、清潔が保てるよう支援している。
		b	利用者一人ひとりの口の中の健康状況(虫歯の有無、義歯の状態、舌の状態等)について把握している。	○	口腔内の義歯の異変や気づきなど他職員への報告、伝達ノートへ記入を行い全員が把握できるようにしている。	/	/	○	
		c	歯科医や歯科衛生士等から、口腔ケアの正しい方法について学び、日常の支援に活かしている。	○	歯科衛生士からの助言を把握し実施している。	/	/	/	
		d	義歯の手入れを適切に行えるよう支援している。	○	一人ひとりに声掛けを行い、見守り必要な方には介助を行っている。	/	/	/	
		e	利用者の力を引き出しながら、口の中の汚れや臭いが生じないように、口腔の清潔を日常的に支援している。(歯磨き・入れ歯の手入れ・うがい等の支援、出血や炎症のチェック等)	○	自身で口腔ケアをした後確認を行い、汚れ等目立つ場合は往診により定期的な口腔清掃を行っている。	/	/	○	
		f	虫歯、歯ぐきの腫れ、義歯の不具合等の状態をそのままにせず、歯科医に受診するなどの対応を行っている。	◎	口腔内のトラブルはご家族様の協力を得て指定の歯科医やかかりつけの歯科受診を勧めている。	/	/	/	
19	排泄の自立支援	a	職員は、排泄の自立が生きる意欲や自信の回復、身体機能を高めることにつながることや、おむつ(紙パンツ・パッドを含む)の使用が利用者の心身に与えるダメージについて理解している。	○	こまめな声掛けにてトイレ誘導を行い排泄の失敗を減らすよう努めている。	/	/	/	日中夜間共にトイレで排泄できるよう支援しており、排泄状態を詳細に記録し、利用者や家族の希望を確認しながら職員間で話し合い、時間帯や排泄量に合わせて適切な排泄用品を使用できるようにするなど、利用者一人ひとりの状態に応じた支援に努めている。
		b	職員は、便秘の原因や及ぼす影響について理解している。	○	便秘による影響について把握し、解消のための話し合いを行い対応している。	/	/	/	
		c	本人の排泄の習慣やパターンを把握している。(間隔、量、排尿・排便の兆候等)	○	排泄記録から個々のパターンを把握しトイレ誘導を行っている。	/	/	/	
		d	本人がトイレで用を足すことを基本として、おむつ(紙パンツ・パッドを含む)使用の必要性や適切性について常に見直し、一人ひとりのその時々状態にあった支援を行っている。	○	個人の状態やレベルに合わせ声掛けを行いトイレでの排せつを促しパットなど時間によって使用するものを分けて介助している。	◎	/	◎	
		e	排泄を困難にしている要因や誘因を探り、少しでも改善できる点はないか検討しながら改善に向けた取り組みを行っている。	○	便秘しやすい利用者様には運動量を増やしたり水分を促し摂取するなどの取り組みに努めている。	/	/	/	
		f	排泄の失敗を防ぐため、個々のパターンや兆候に合わせて早めの声かけや誘導を行っている。	○	パターンで把握し、自然な排泄ができるよう援助している。	/	/	/	
		g	おむつ(紙パンツ・パッドを含む)を使用する場合は、職員が一方的に選択するのではなく、どういう時間帯にどのようなものを使用するか等について本人や家族と話し合い、本人の好みや自分で使えるものを選択できるよう支援している。	○	尿量や失禁しやすい時間帯の把握し職員同士で話し合い、家族様へ説明しどのパットを使用するか一緒に考え決めている。	/	/	/	
		h	利用者一人ひとりの状態に合わせて下着やおむつ(紙パンツ・パッドを含む)を適時使い分けしている。	○	日中、夜間に合ったパットを使用し使い分けしている。	/	/	/	
		i	飲食物の工夫や運動への働きかけなど、個々の状態に応じて便秘予防や自然排便を促す取り組みを行っている。(薬に頼らない取り組み)	△	適度な運動を行い水分補給を十分に行っても便秘してしまう方には医師へ相談、内服薬を服用している。	/	/	/	
20	入浴を楽しむことができる支援	a	曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、利用者一人ひとりの希望や習慣にそって入浴できるよう支援している。(時間帯、長さ、回数、温度等)。	○	2日に1回入浴日を決め本人様の体調を見たり、状況によっては日時を変更するなどの対応を行っている。	◎	/	◎	2日に1回入浴を基本として、ゆっくりと入浴できるよう配慮しており、利用者の希望があれば、日程や時間帯、湯温など、できる限り希望に沿えるよう臨機応変な支援に努めている。
		b	一人ひとりが、くつろいだ気分で入浴できるよう支援している。	○	個人のペースで入浴できるよう援助を行っている。	/	/	/	
		c	本人の力を活かしながら、安心して入浴できるよう支援している。	○	更衣・洗身等出来ることはしていただいている。	/	/	/	
		d	入浴を拒む人に対しては、その原因や理由を理解しており、無理強いせず気持ち良く入浴できるよう工夫している。	○	拒否している方には理由を聞いたりなどして本人様の意見を尊重し時間帯を変えたりなどの工夫を行っている。	/	/	/	
		e	入浴前には、その日の健康状態を確認し、入浴の可否を見極めるとともに、入浴後の状態も確認している。	○	毎朝のバイタルチェックや本人様の状態を観察し、入浴を実施している。	/	/	/	

項目No.	評価項目	小項目	内容	自己評価	判断した理由・根拠	家族評価	地域評価	外部評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
21	安眠や休息の支援	a	利用者一人ひとりの睡眠パターンを把握している。	○	毎日の睡眠状態を記録し職員全員が把握できるようにしている。	/	/	/	日中を活動的に過ごしてもらい、夜間不眠時には職員が寄り添うなど工夫した支援に努め、薬剤に頼らないようにしている。
		b	夜眠れない利用者についてはその原因を探り、その人本来のリズムを取り戻せるよう1日の生活リズムを整える工夫や取り組みを行っている。	○	体操や散歩、レクリエーションを行い日中の活動を行いメリハリをつけている。	/	/	/	
		c	睡眠導入剤や安定剤等の薬剤に安易に頼るのではなく、利用者の数日間の活動や日中の過ごし方、出来事、支援内容などを十分に検討し、医師とも相談しながら総合的な支援を行っている。	○	夜間、眠りやすいよう日中の活動量を増やすなどの工夫をしているがそれでも不眠の方には医師への相談を行い安眠できるよう努めている。	/	/	○	
		d	休息や昼寝等、心身を休める場面が個別に取れるよう取り組んでいる。	○	利用者様の状態や希望がある場合は休憩を行っている。	/	/	/	
22	電話や手紙の支援	a	家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている。	○	家族様からの電話の取次ぎはもちろんのこと、家族への連絡を希望される方への発信支援を行っている。	/	/	/	
		b	本人が手紙が書けない、電話はかけられないと決めつけず、促したり、必要な手助けをする等の支援を行っている。	○	手紙等が届いたらお礼を促す等声掛けし、希望があれば必要な支援をしている。	/	/	/	
		c	気兼ねなく電話できるよう配慮している。	○	連絡願望をくみとり声掛けし電話できるよう支援している。	/	/	/	
		d	届いた手紙や葉書をそのままにせず音信がとれるように工夫している。	○	職員がその都度対応し、電話等でやりとりが行えるよう支援している。	/	/	/	
		e	本人が電話をかけることについて家族等に理解、協力をしてもらおうとともに、家族等からも電話や手紙をくれるようお願いしている。	○	本人の訴えで電話をかけることへの理解、協力は得ている。遠方の家族様には手紙や電話での連絡を依頼している。	/	/	/	
23	お金の所持や使うことの支援	a	職員は本人がお金を所持すること、使うことの意味や大切さを理解している。	○	本人の強い希望があるときは職員が利用者様と一緒に確認し必要なお金は所持していただくこともある。	/	/	/	
		b	必要物品や好みの買い物に出かけ、お金の所持や使う機会を日常的につくっている。	○	必要物品は家族に依頼し購入していただいている。一部の物は購入する機会を作っている。	/	/	/	
		c	利用者が気兼ねなく安心して買い物ができるよう、日頃から買い物先の理解や協力を得る働きかけを行っている。	○	月に2回の移動販売のパン屋さんが来た際には、ゆっくり好みのものが購入できるように理解協力をいただいている。	/	/	/	
		d	「希望がないから」「混乱するから」「失くすから」などと一方的に決めてしまうのではなく、家族と相談しながら一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している。	○	小遣いは事務所で一時的に預かる場合があるが必要時は事務所で一時的に対応できることを家族様と話し合い理解を得ている。	/	/	/	
		e	お金の所持方法や使い方について、本人や家族と話し合っている。	○	小遣いは利用毎に預かり家族様に報告している。	/	/	/	
		f	利用者が金銭の管理ができない場合には、その管理方法や家族への報告の方法などルールを明確にしており、本人・家族等の同意を得ている。(預り金規程、出納帳の確認等)。	○	希望により買い物に行く場合は家族より預かり収支報告し残金は返却している。	/	/	/	
24	多様なニーズに応える取り組み		本人や家族の状況、その時々ニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる。	○	隣接する介護老人保健施設との交流、協力により柔軟な支援を行っている。	○	/	○	急な病院受診に家族が付き添えない場合に、職員が付き添うことや近所の人に会いたいと希望する利用者、家族の協力を得ながら実現できるようにすること等、柔軟な支援に努めている。

項目No.	評価項目	小項目	内容	自己評価	判断した理由・根拠	家族評価	地域評価	外部評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと	
(3)生活環境づくり										
25	気軽に入れる 玄関まわり等の配慮		利用者や家族、近隣の人等にとって親しみやすく、気軽に出入りができるように、玄関や建物周囲の工夫をしている。	○	玄関先にベンチを設置しており、気軽にくつろげるスペースを設けている。	◎	○	○	玄関まわりに草花を植え、くつろげるようベンチを設置することで、開放感があり入りやすい雰囲気になっている。	
26	居心地の良い 共用空間づくり	a	共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、家庭的な雰囲気を有しており、調度や設備、物品や装飾も家庭的で、住まいとしての心地良さがある。(天井や壁に子供向けの飾りつけをしていたり、必要なものが置いていない殺風景な共用空間等、家庭的な雰囲気をそぐような設えになっていないか等。)	○	台所からフロア内見渡すことができ建物のまわりには田園が広がり、光がよく差し明るく眺望が良い。室内には入居者の絵や手工芸作品を掲示したり飾り付けたり暖かい雰囲気である。	○	○	◎	オープンキッチンがあるなど共用空間は明るく、広々とし心地よい空間となっている。事業所内は清掃が行き届き、不快な臭いも感じないなど、清潔感がある。壁には利用者と職員合作の節分飾り等、季節に応じたものが掛けられるなど、季節を感じられるよう配慮されている。	
		b	利用者にとって不快な音や光、臭いがないように配慮し、掃除も行き届いている。	○	毎日の清掃を徹底している。こまめに換気をしたり日差し強ければカーテンを閉め調節している。	/	/	/		◎
		c	心地よさや能動的な言動を引き出すために、五感に働きかける様々な刺激(生活感や季節感を感じるもの)を生活空間の中に採り入れ、居心地よく過ごせるよう工夫している。	○	月ごとに季節に応じた壁画を作成したり中庭の花を飾るなど工夫している。	/	/	/		○
		d	気の合う利用者同士で思い思いに過ごせたり、人の気配を感じながらも独りになれる居場所の工夫をしている。	○	気の合う方と席を一緒にしたり、居室で過ごされている方へはこまめに巡視・声掛けを行っている。	/	/	/		/
		e	トイレや浴室の内部が共用空間から直接見えないよう工夫している。	○	トイレ、浴室は共用スペースから直接見えない、また使用時には必ず扉を閉めている。	/	/	/		/
27	居心地良く過ごせる 居室の配慮		本人や家族等と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている。	○	本人の希望に添って自宅の家具、使い慣れた毛布等持参していただき、居心地よく過ごせる工夫を行っている。	◎	/	◎	ベッドや馴染みの家具、テレビ等を思い思いに配置するほか、家族の写真や花、折り紙や塗り絵等の作品を飾るなど、居室は居心地よく過ごせるようになっている。	
28	一人ひとりの力が 活かせる環境づくり	a	建物内部は利用者一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように配慮や工夫をしている。	○	浴室、トイレなどに貼紙をして場所がすぐにわかるように工夫している。自由な移動を妨げないよう、安全に生活できるよう整理整頓もできている。	/	/	/	◎	
		b	不安や混乱、失敗を招くような環境や物品について検討し、利用者の認識間違いや判断ミスを最小にする工夫をしている。	○	間違えやすいものは整理収納し、必要なものには名前を表示する等の工夫できている。	/	/	/	/	
		c	利用者の活動意欲を触発する馴染みの物品が、いつでも手に取れるように生活空間の中にさりげなく置かれている。(ほうき、裁縫道具、大工道具、園芸用品、趣味の品、新聞・雑誌、ポット、急須・湯飲み・お茶の道具等)	○	新聞、雑誌、ポット、お茶セット、コーヒー用具など邪魔にならず手に取りやすいように必要に応じカウンタにセッティングしている。	/	/	/	/	
29	鍵をかけない ケアの取り組み	a	代表者及び全ての職員が、居室や日中にユニット(棟)の出入り口、玄関に鍵をかけることの弊害を理解している。(鍵をかけられ出られない状態で暮らしていることの異常性、利用者にもたらす心理的不安や閉塞感・あきらめ・気力の喪失、家族や地域の人にもたらす印象のデメリット等)	○	居室の鍵はかける事なく暮らしている。ユニットの鍵は、家族様の同意を得て不穏時や離設の恐れのある場合のみかけている。	◎	◎	x	職員は玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、玄関は日中開放されているが、各ユニット出入口は電子ロック構造になっているため、日中ユニットの電子ロックを開錠する方向で検討されており、今後の取組みに期待したい。	
		b	鍵をかけない自由な暮らしについて家族の理解を図っている。安全を優先するために施錠を望む家族に対しては、自由の大切さと安全確保について話し合っている。	○	安全管理の重要性の理解を求めると共に、鍵は離接の恐れがある場合など最低限だけにしている。	/	/	/		
		c	利用者の自由な暮らしを支え、利用者や家族等に心理的圧迫をもたらさないよう、日中は玄関に鍵をかけなくてもすむよう工夫している(外出の察知、外出傾向の把握、近所の理解・協力の促進等)。	○	外に出たそうにされる利用者様にはスタッフが寄り添い、その都度自由に出入りできるようにしている。	/	/	/		

項目No.	評価項目	小項目	内容	自己評価	判断した理由・根拠	家族評価	地域評価	外部評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
(4) 健康を維持するための支援									
30	日々の健康状態や病状の把握	a	職員は、利用者一人ひとりの病歴や現病、留意事項等について把握している。	○	カルテ、薬を確認し把握している。				
		b	職員は、利用者一人ひとりの身体状態の変化や異常のサインを早期に発見できるように注意しており、その変化やサインを記録に残している。	○	変化や異常が見られれば個別に記録に残すとともに申し送りで伝えたり、伝達ノートに記入し職員間でも情報共有できている。				
		c	気になることがあれば看護職やかかりつけ医等についても気軽に相談できる関係を築き、重度化の防止や適切な入院につなげる等の努力をしている。	○	母体である病院、クリニックと密に連絡とって連携できている。変化や異常はその都度報告して適切な指示を受けることができている。				
31	かかりつけ医等の受診支援	a	利用者一人ひとりのこれまでの受療状況を把握し、本人・家族が希望する医療機関や医師に受診できるよう支援している。	○	入居前からのかかりつけ病院へ継続して受診できるよう連携、連絡をとり現状の報告も行い安心して受診できるよう支援している。	◎			
		b	本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している。	○	意向を伺いつつ、協力医療機関を安心して利用していただけるよう説明し、必要に応じ訪問看護等の説明も行い、適切な医療を受けられるよう支援している。				
		c	通院の仕方や受診結果の報告、結果に関する情報の伝達や共有のあり方等について、必要に応じて本人や家族等の合意を得られる話し合いを行っている。	○	通院については基本的に家族同行での受診とし、その都度直接医師の説明が受けられるようにしている。その後の方針については話し合い適切に対応している。				
32	入退院時の医療機関との連携、協働	a	入院の際、特にストレスや負担を軽減できる内容を含む本人に関する情報提供を行っている。	○	病院への情報提供ではADLはもちろん、日頃の様子も詳しく説明し穏やかに過ごせるよう連携している。				
		b	安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。	○	入院中の様子なども連絡をとりあい、情報交換し、今後の方針を決められるよう支援している。				
		c	利用者の入院時、または入院した場合に備えて日頃から病院関係者との関係づくりを行っている。	○	日頃から変化や異常を見つけたら病院へ報告しており、協力体制を築けるよう努めている。				
33	看護職との連携、協働	a	介護職は、日常の関わりの中で得た情報や気づきを職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談している。看護職の配置や訪問看護ステーション等との契約がない場合は、かかりつけ医や協力医療機関等に相談している。	○	訪問看護との連携を図ると共に病院への連絡も必ず行うなど、相談しやすい関係を築けている。				
		b	看護職もしくは訪問看護師、協力医療機関等に、24時間いつでも気軽に相談できる体制がある。	◎	関連病院と24時間医療連携し、状態に合わせて指示を受けることができる体制がある。				
		c	利用者の日頃の健康管理や状態変化に応じた支援が適切にできるよう体制を整えている。また、それにより早期発見・治療につなげている。	○	毎朝のバイタルチェックから日頃の変化を観察し、早期発見・治療へ繋げられるよう、医療機関との連携を重視している。				
34	服薬支援	a	職員は、利用者が使用する薬の目的や副作用、用法や用量について理解している。	○	内服の内容、薬の説明書など目を通し、把握するようになっている。				
		b	利用者一人ひとりが医師の指示どおりに服薬できるよう支援し、飲み忘れや誤薬を防ぐ取り組みを行っている。	○	個別の内服薬表を作成し、きちんと服用できるよう管理し、その都度内服介助、支援をしている。				
		c	服薬は本人の心身の安定につながっているのか、また、副作用(周辺症状の誘発、表情や活動の抑制、食欲の低下、便秘や下痢等)がないかの確認を日常的に行っている。	○	かかりつけ医へ日頃の様子を伝えることで、薬の見直しや副作用が出ていないかを話し合い、こまめに観察し記録に残すようになっている。				
		d	漫然と服薬支援を行うのではなく、本人の状態の経過や変化などを記録し、家族や医師、看護職等に情報提供している。	○	薬の内容を把握し、利用者様に変化があれば、家族様・医師に報告している。				

項目No.	評価項目	小項目	内容	自己評価	判断した理由・根拠	家族評価	地域評価	外部評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと	
35	重度化や終末期への支援	a	重度化した場合や終末期のあり方について、入居時、または状態変化の段階ごとに本人・家族等と話し合いを行い、その意向を確認しながら方針を共有している。	○	体調変化があればその都度本人様・家族様と十分に話し合い説明しながら、方針を共有している。	/	/	/	母体が医療機関であり、24時間医療体制を整え、利用者や家族の要望に応じて看取りを行う方針である。入居時に終末期をどこで迎えたいかの意向を確認しており、容態に変化があった際は、その都度家族や医療関係者等と話し合い方針を共有している。	
		b	重度化、終末期のあり方について、本人・家族等だけでなく、職員、かかりつけ医・協力医療機関等関係者で話し合い、方針を共有している。	○	家族様、職員、医師との連携をとり、安心していただけるよう情報を共有している。	○	/	○		
		c	管理者は、終末期の対応について、その時々職員の思いや力量を把握し、現状ではどこまでの支援ができるかの見極めを行っている。	○	職員間で話し合いを行い、状況を把握できるようにしている。	/	/	/		/
		d	本人や家族等に事業所の「できること・できないこと」や対応方針について十分な説明を行い、理解を得ている。	○	重度化した時点で家族様へ事業所として可能なこと、出来ないことを説明し、理解を得られるよう対応している。	/	/	/		/
		e	重度や終末期の利用者が日々をより良く暮らせるために、家族やかかりつけ医など医療関係者と連携を図りながらチームで支援していく体制を整えている。あるいは、今後の変化に備えて検討や準備を行っている。	○	終末期である利用者様へは、訪問看護・病院と十分な連絡を取り合い、情報を共有しチームケアできる体制作りをしている。	/	/	/		/
		f	家族等への心理的支援を行っている。(心情の理解、家族間の事情の考慮、精神面での支え等)	○	面会時には利用者様の様子を伝えと共に、今後考えられる状態についても一緒に話し合い、サポートできるよう努めている。	/	/	/		/
36	感染症予防と対応	a	職員は、感染症(ノロウイルス、インフルエンザ、白癬、疥癬、肝炎、MRSA等)や具体的な予防策、早期発見、早期対応策等について定期的に学んでいる。	○	感染症の流行前には勉強会へ参加し、職員がすぐ対応できるように努めている。	/	/	/		
		b	感染症に対する予防や対応の取り決めがあり、万が一、感染症が発生した場合に速やかに手順にそった対応ができるよう日頃から訓練を行うなどして体制を整えている。	○	感染症のマニュアルを作成しており、マニュアルに沿った対応が出来るよう訓練を実施したりと体制を整えている。	/	/	/		
		c	保健所や行政、医療機関、関連雑誌、インターネット等を通じて感染症に対する予防や対策、地域の感染症発生状況等の最新情報を入手し、取り入れている。	○	感染症についての研修・勉強会へ参加し、新しい情報も取り入れつつ、職員間で話し合うことで共有を図っている。	/	/	/		
		d	地域の感染症発生状況の情報収集に努め、感染症の流行に随時対応している。	○	インターネットやメディア情報をこまめにチェックし早めに対策を取るようになっている。	/	/	/		
		e	職員は手洗いやうがいなど徹底して行っており、利用者や来訪者等についても清潔が保持できるよう支援している。	○	職員の手洗い・うがいはもちろんのこと、面会者へのマスクの着用や手指消毒の声かけを行っている。	/	/	/		

項目No.	評価項目	小項目	内容	自己評価	判断した理由・根拠	家族評価	地域評価	外部評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
II. 家族との支え合い									
37	本人とともに支え合う 家族との関係づくりと支援	a	職員は、家族を支援される一方の立場におかず、喜怒哀楽をともにし、一緒に本人を支えていく関係を築いている。	○	面会時には日頃の様子を伝えることにより、利用者様の変化に合わせて支援の方向性や家族様の関わり方について話し合うようにしている。	/	/	/	毎月開催する食事会や花見会、納涼祭、文化祭等の行事を案内しており、行事終了後等に家族会を開催している。納涼祭は家族の協力を得て大規模に開催しており、利用者に喜ばれている。現在、近隣に在住する家族が多く、面会の頻度も多いが、疎遠な家族には、たよりを送付し電話でも話すなど、意思疎通を図っている。介護保険制度の変更や人事異動等事業所の報告は、運営推進会議等で行っているが、家族全員が把握するまでには至っていないため、周知方法を工夫するなど、今後の取組みに期待したい。家族の面会時に、職員は必ず声をかけ話しやすいよう雰囲気づくりに配慮し、利用者の様子を伝えたり、家族の要望等を聞くよう努めている。
		b	家族が気軽に訪れ、居心地よく過ごせるような雰囲気づくりや対応を行っている。(来やすい雰囲気、関係再構築の支援、湯茶の自由利用、居室への宿泊のしやすさ等)	○	面会時には、居室等でゆっくりと過ごせるようお茶を出したりイスの準備をしたり、重度の方でも職員が仲介に入り家族様との関わりが取れるように努めている。	/	/	/	
		c	家族がホームでの活動に参加できるように、場面や機会を作っている。(食事づくり、散歩、外出、行事等)	○	大きな行事として、花見会での外食、納涼祭、文化祭など、家族様も参加できるようにしている。	○	/	○	
		d	来訪する機会が少ない家族や疎遠になってしまっている家族も含め、家族の来訪時や定期的な報告などにより、利用者の暮らしぶりや日常の様子を具体的に伝えている。(「たより」の発行・送付、メール、行事等の録画、写真の送付等)	○	来訪の少ない家族様へは伝達事を電話連絡し、面会に来ていただいた際に行事や日頃の様子を伝えている。	○	/	○	
		e	事業所側の一方的な情報提供ではなく、家族が知りたいことや不安に感じていること等の具体的な内容を把握して報告を行っている。	○	面会時に家族様側の気になることなどを伺った場合は、伝達ノートへ記入し情報を共有した上で、解決できるよう支援している。	/	/	/	
		f	これまでの本人と家族との関係の理解に努め、より良い関係を築いていけるように支援している。(認知症への理解、本人への理解、適切な接し方・対応等についての説明や働きかけ、関係の再構築への支援等)	○	本人様と家族様が関わっている様子から関係性を感じ取りつつ、昔の話を引き出せるようにしている。又、認知症が進行すると共に予想されることや今後について話し合うようにしている。	/	/	/	
		g	事業所の運営上の事柄や出来事について都度報告し、理解や協力を得るようにしている。(行事、設備改修、機器の導入、職員の異動・退職等)	○	面会時にはもちろんのこと、急な対応や事柄があれば、一人ひとりに連絡をし理解・協力を得られている。	×	/	△	
		h	家族同士の交流が図られるように、様々な機会を提供している。(家族会、行事、旅行等への働きかけ)	○	行事参加を呼びかけ、家族様同士が交流を図れる機会を提供している。	/	/	/	
		i	利用者一人ひとりに起こり得るリスクについて家族等に説明し、抑圧感のない暮らしを大切にしたい対応策を話し合っている。	○	入居時には様々なリスクについて説明している。ADL等の低下によりリスクが高まった際にも再度話し合い、利用者様に合わせたケアを提供できるよう努めている。	/	/	/	
		j	家族が、気がかりなことや、意見、希望を職員に気軽に伝えたり相談したりできるように、来訪時の声かけや定期的な連絡等を積極的に行っている。	○	来訪時にも職員から積極的に話しかけるようにし、多くのコミュニケーションをとる事で、家族様からの意見が出しやすくなるよう心がけている。	/	/	○	
38	契約に関する説明と納得	a	契約の締結、解約、内容の変更等の際は、具体的な説明を行い、理解、納得を得ている。	○	説明し理解してる。変更あれば都度伝えている。	/	/	/	
		b	退居については、契約に基づくとともにその決定過程を明確にし、利用者や家族等に具体的な説明を行った上で、納得のいく退居先に移れるように支援している。退居事例がない場合は、その体制がある。	○	退居時は家族様の意向も伺い話し合い退居されている。	/	/	/	
		c	契約時及び料金改定時には、料金の内訳を文書で示し、料金の設定理由を具体的に説明し、同意を得ている。(食費、光熱水費、その他の実費、敷金設定の場合の償却、返済方法等)	○	料金表を提示して、説明を行い同意を得ている。	/	/	/	

項目No.	評価項目	小項目	内容	自己評価	判断した理由・根拠	家族評価	地域評価	外部評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
Ⅲ.地域との支え合い									
39	地域とのつきあいやネットワークづくり ※文言の説明 地域:事業所が所在する市町の日常生活圏域、自治会エリア	a	地域の人に対して、事業所の設立段階から機会をつくり、事業所の目的や役割などを説明し、理解を図っている。	○	事業所の案内などは地域の総会など通じてグループホームの目的や役割を説明している。	/	◎	/	定期的な保育園児との交流や、七夕会や敬老会などに訪れるボランティアとの交流の機会がある。公民館で行われる文化祭へ作品を出品し盆踊りや体育祭行事にも参加するなど、地域住民との交流が深められる機会を設け、利用者が地域とつながりながら生活できるよう支援している。
		b	事業所は、孤立することなく、利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、地域の人たちに対して日頃から関係を深める働きかけを行っている。(日常的なあいさつ、町内会・自治会への参加、地域の活動や行事への参加等)	○	地方祭の時など神輿が来て、かき手の人と話したり関係作りを行っている。	/	○	◎	
		c	利用者を見守ったり、支援してくれる地域の人たちが増えている。	○	農作業している方から声かけされたり、散歩やひなたぼっこなどで交流されている。	/	/	/	
		d	地域の人々が気軽に立ち寄り遊びに来たりしている。	○	時々、スタッフの人が近隣の人とベンチに座り話されている。	/	/	/	
		e	隣近所の人と気軽に声をかけ合ったり、気軽に立ち寄ってもらうなど、日常的なおつきあいをしている。	○	日頃から挨拶をしたり世間話をしたりされている。	/	/	/	
		f	近隣の住民やボランティア等が、利用者の生活の拡がりや充実を図ることを支援してくれるよう働きかけを行っている。(日常的な活動の支援、遠出、行事等の支援)	○	ボランティアの方が隣の施設で踊ったり唄ったりされるため、一緒に参加することで住民の方と交流を図っている。	/	/	/	
		g	利用者一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している。	○	利用者一人ひとりに対話やリハビリをしたり、心身ともに向上する努力している。	/	/	/	
		h	地域の人たちや周辺地域の諸施設からも協力を得ることができるよう、日頃から理解を拡げる働きかけや関係を深める取り組みを行っている(公民館、商店・スーパー・コンビニ、飲食店、理美容店、福祉施設、交番、消防、文化・教育施設等)。	○	地域の人との挨拶や会話、生活利用店舗など人の会話に心がけ理解を深めるよう支援している。	/	/	/	
40	運営推進会議を活かした取り組み	a	運営推進会議には、毎回利用者や家族、地域の人等の参加がある。	○	事前に知らせる事で参加されている。	×	/	△	運営推進会議は、利用者や家族代表者、民生委員、婦人会、地区総代及び市職員等の参加を得ているが、会議内容は参加家族のみの理解にとどまっている感があるため、不参加の家族を含め会議内容を把握できるよう、議事録等の送付に努めて欲しい。会議は事業所の実情について理解を深めてもらう機会となっており、地域の情報や意見、助言を得られる場となっており、外部評価結果等について、意見交換を行い出された意見等を職員間で話し合い、運営に活かせるよう努めている。
		b	運営推進会議では、利用者やサービスの実績、評価への取り組み状況(自己評価・外部評価の内容、目標達成計画の内容と取り組み状況等)について報告している。	○	行事や研修で得た知識や外部評価や外部評価を受けた時にも報告する事で理解をしている。	/	/	○	
		c	運営推進会議では、事業所からの一方的な報告に終わらず、会議で出された意見や提案等を日々の取り組みやサービス向上に活かし、その状況や結果等について報告している。	○	参加者の意見や問題点をしっかり聞いて、サービス向上につながるように心がけている。	/	◎	○	
		d	テーマに合わせて参加メンバーを増やしたり、メンバーが出席しやすい日程や時間帯について配慮・工夫をしている。	○	なるべく早く告知し利用者が参加しやすいようにしている。	/	/	◎	
		e	運営推進会議の議事録を公表している。	○	玄関先にファイルにして提示している。	/	/	/	

項目No.	評価項目	小項目	内容	自己評価	判断した理由・根拠	家族評価	地域評価	外部評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
IV.より良い支援を行うための運営体制									
41	理念の共有と実践	a	地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、代表者、管理者、職員は、その理念について共通認識を持ち、日々の実践が理念に基づいたものになるよう日常的に取り組んでいる。	○	「相手を思いやる和の心で誠意を持って接する」を理念の下、唱和する事で職員の意識付けをしている。	/	/	/	
		b	利用者、家族、地域の人たちにも、理念をわかりやすく伝えている。	○	契約書、重要事項とか法人の理念も記載して機会あるごとに伝えている。	△	○	/	
42	職員を育てる取り組み ※文言の説明 代表者：基本的には運営している法人の代表者であり、理事長や代表取締役が該当するが、法人の規模によって、理事長や代表取締役をその法人の地域密着型サービス部門の代表者として扱うのは合理的ではないと判断される場合、当該部門の責任者などを代表者として差し支えない。したがって、指定申請書に記載する代表者と異なることはありうる。	a	代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、計画的に法人内外の研修を受けられるよう取り組んでいる。	○	職員個々の力量を把握し、レベル向上に必要と思われる研修を受けられる。	/	/	/	代表者は、職員が働きながら子育てができる環境や職能手当の創設等、働きやすい労働環境の整備を行うほか、年1回ストレスチェックを実施するなど、職員のストレス軽減にも努めている。
		b	管理者は、OJT(職場での実務を通して行う教育・訓練・学習)を計画的に行い、職員が働きながらスキルアップできるよう取り組んでいる。	○	研修や勉強会に参加しつつ、現場でも一人ひとりに合わせ教育し、次のステップへ上がれるように取り組んでいる。	/	/	/	
		c	代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている。	○	勤務状況、労働時間だけに限らず、各自が向上心をもてるよう職場環境の改善が図れるよう努めている。	/	/	/	
		d	代表者は管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互研修などの活動を通して職員の意識を向上させていく取り組みをしている。(事業者団体や都道府県単位、市町単位の連絡会などへの加入・参加)	○	グループホームの交流会に参加させていただく機会があり、意見交換や研修を重ねることで新たな気づきがあるなど意の向上につなげている。	/	/	/	
		e	代表者は、管理者や職員のストレスを軽減するための工夫や環境づくりに取り組んでいる。	○	それぞれの長所が生かせ、ストレスの少ない環境作りに取り組んでいる。	○	◎	○	
43	虐待防止の徹底	a	代表者及び全ての職員は、高齢者虐待防止法について学び、虐待や不適切なケアに当たるのは具体的にどのような行為なのかを理解している。	○	虐待防止法についての研修へ参加し、報告書を作成し情報を共有すると共に、日々のケアに虐待行為はないか話し合うようにしている。	/	/	/	職員は虐待防止の研修に参加し学ぶ機会があるほか、虐待防止マニュアルを作成し職員に周知しており、不適切なケア等に気づいた時の対応方法や手順等を理解し共有している。職員は不適切なケアや虐待につながる言葉遣いはないか、常日頃から注意を払いながら、日々の支援に努めている。
		b	管理者は、職員とともに日々のケアについて振り返ったり話し合ったりする機会や場をつくっている。	○	朝礼や申し送りにてケアについての振り返りや話し合いを行っている。	/	/	/	
		c	代表者及び全ての職員は、虐待や不適切なケアが見逃されることがないように注意を払い、これらの行為を発見した場合の対応方法や手順について知っている。	○	入居者様のことを最大限に尊重したケアに努めており、日頃から虐待や不適切なケアはないよう職員間で声掛け注意している。	/	/	◎	
		d	代表者、管理者は職員の疲労やストレスが利用者へのケアに影響していないか日常的に注意を払い、点検している。	○	疲労やストレス等がケア中に見られれば即交代して休憩を入れたり、他の業務に就いたりしてケアへの影響が出る前に防止できている。	/	/	/	
44	身体拘束をしないケアの取り組み	a	代表者及び全ての職員が「指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」や「緊急やむを得ない場合」とは何かについて正しく理解している。	○	禁止行為について理解できている。	/	/	/	
		b	どのようなことが身体拘束に当たるのか、利用者や現場の状況に照らし合わせて点検し、話し合う機会をつくっている。	○	話し合う機会を設け、日頃のケアの中に身体拘束に当たるものがないか確認している。	/	/	/	
		c	家族等から拘束や施設側の要望があっても、その弊害について説明し、事業所が身体拘束を行わないケアの取り組みや工夫の具体的な内容を示し、話し合いを重ねながら理解を図っている。	○	話し合いを持ち対応策を考え、家族様側も理解と協力が得られるよう努めている。	/	/	/	

項目No.	評価項目	小項目	内容	自己評価	判断した理由・根拠	家族評価	地域評価	外部評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
45	権利擁護に関する制度の活用	a	管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学び、それぞれの制度の違いや利点などを理解している。	○	現在利用されている方はいないが制度の違いや利点等理解している。	/	/	/	
		b	利用者や家族の現状を踏まえて、それぞれの制度の違いや利点なども含め、パンフレット等で情報提供したり、相談にのる等の支援を行っている。	△	現状では制度利用の必要な方は入居されていないが、折にふれて情報を提供している。	/	/	/	
		c	支援が必要な利用者が制度を利用できるよう、地域包括支援センターや専門機関(社会福祉協議会、後見センター、司法書士等)との連携体制を築いている。	△	相談があれば、連携して制度が利用できるようにしている。	/	/	/	
46	急変や事故発生時の備え・事故防止の取り組み	a	怪我、骨折、発作、のど詰まり、意識不明等利用者の急変や事故発生時に備えて対応マニュアルを作成し、周知している。	○	事故発生・急変等マニュアルを作成、周知しており、ステーション内に急変時一覧を貼り出している。	/	/	/	
		b	全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている。	△	定期的に勉強会開催、訓練も行っているが、職員の勤務年数により、一部不十分さが残る。	/	/	/	
		c	事故が発生した場合の事故報告書はもとより、事故の一手手前の事例についてもヒヤリハットにまとめ、職員間で検討するなど再発防止に努めている。	○	事例について対策をパソコン入力、議事録に残し、職員間で検討・再発防止に努めている。	/	/	/	
		d	利用者一人ひとりの状態から考えられるリスクや危険について検討し、事故防止に取り組んでいる。	○	ミーティングや毎朝礼時に状態を把握、リスク等検討し、事故防止に努めている。	/	/	/	
47	苦情への迅速な対応と改善の取り組み	a	苦情対応のマニュアルを作成し、職員はそれを理解し、適宜対応方法について検討している。	○	マニュアルを作成、職員も理解できている。苦情時には迅速に対応している。	/	/	/	
		b	利用者や家族、地域等から苦情が寄せられた場合には、速やかに手順に沿って対応している。また、必要と思われる場合には、市町にも相談・報告等している。	○	速やかな対応を心がけ、相談担当者が手順により対応している。	/	/	/	
		c	苦情に対しての対策案を検討して速やかに回答するとともに、サービス改善の経過や結果を伝え、納得を得ながら前向きな話し合いと関係づくりを行っている。	○	相談担当者が問題点を把握し納得を得られるよう話し合い良好な関係作りを努めている。	/	/	/	
48	運営に関する意見の反映	a	利用者が意見や要望、苦情を伝えられる機会をつくっている。(法人・事業所の相談窓口、運営推進会議、個別に訊く機会等)	○	2か月に1回運営推進会議を行う等ご意見、ご要望を伝えられる場を設けている。	/	/	○	利用者からは、日常会話の中で要望を聞き取るほか、介護計画更新時に時間を設けて意向を確認している。家族からは、運営推進会議や家族会で意見や要望を把握するよう努めている。管理者は日常業務に従事しているため、職員との接点は多く、意見や提案を把握し、日頃のケアに活かせるよう話し合う機会を設けている。
		b	家族等が意見や要望、苦情を伝えられる機会をつくっている。(法人・事業所の相談窓口、運営推進会議、家族会、個別に訊く機会等)	○	2か月に1回運営推進会議、毎月第4金曜日に家族会、玄関先に意見箱、また面会時には積極的に伺うよう心掛けている。	◎	/	○	
		c	契約当初だけではなく、利用者・家族等が苦情や相談ができる公的な窓口の情報提供を適宜行っている。	○	フロアの壁に市社協・市役所・団体等の電話番号を掲示している。	/	/	/	
		d	代表者は、自ら現場に足を運ぶなどして職員の意見や要望・提案等を直接聞く機会をつくっている。	○	合同ミーティング月1回開催等し、意見や要望など伝える機会を設けている。	/	/	/	
		e	管理者は、職員一人ひとりの意見や提案等を聴く機会を持ち、ともに利用者本位の支援をしていくための運営について検討している。	○	グループホーム独自のミーティングや普段からの職員間のコミュニケーションを図り意見交換し利用者様本位の支援に努めている。	/	/	○	

項目No.	評価項目	小項目	内容	自己評価	判断した理由・根拠	家族評価	地域評価	外部評価	実施状況の確認及び次のステップに向けて期待したいこと
49	サービス評価の取り組み	a	代表者、管理者、職員は、サービス評価の意義や目的を理解し、年1回以上全員で自己評価に取り組んでいる。	○	年2回職員全員が自己評価し省る機会を持っている。	/	/	/	外部評価の結果は、運営推進会議で報告して参加者から意見や助言を得ているが、取り組みのモニターをしてもらうまでには至っていないため、今後参加者に取り組みのモニターを依頼するなど、事業所のサービス向上につながるよう努めて欲しい。
		b	評価を通して事業所の現状や課題を明らかにするとともに、意識統一や学習の機会として活かしている。	○	評価を全体的に把握し、課題を明らかにし学習等に活かしている。	/	/	/	
		c	評価(自己・外部・家族・地域)の結果を踏まえて実現可能な目標達成計画を作成し、その達成に向けて事業所全体で取り組んでいる。	○	評価を踏まえ反省と新たな目標達成計画を作成し、取り組んでいる。	/	/	/	
		d	評価結果と目標達成計画を市町、地域包括支援センター、運営推進会議メンバー、家族等に報告し、今後の取り組みのモニターをしてもらっている。	○	運営推進会議にて評価結果を今後の取り組みを報告、モニターしていただけるよう取り組んでいる。	×	○	△	
		e	事業所内や運営推進会議等にて、目標達成計画に掲げた取り組みの成果を確認している。	○	目標達成計画に掲げた取り組みの成果を確認、新たな問題点に取り組んでいる。	/	/	/	
50	災害への備え	a	様々な災害の発生を想定した具体的な対応マニュアルを作成し、周知している。(火災、地震、津波、風水害、原子力災害等)	○	災害対応マニュアルを作成、周知している。	/	/	/	事業所周辺には法人が運営する複数の事業所があり、災害発生時に協力し合える環境にある。近隣防災協定を締結しているが、地域の防災訓練に参加したことがないため、避難訓練に参加するなど、地域との協力関係の構築に努めて欲しい。
		b	作成したマニュアルに基づき、利用者が、安全かつ確実に避難できるよう、さまざまな時間帯を想定した訓練を計画して行っている。	○	年2回日中、夜間を想定し訓練を行っている。	/	/	/	
		d	消火設備や避難経路、保管している非常用食料・備品・物品類の点検等を定期的に行っている。	○	消化訓練、避難経路の確保、物品等点検を行っている。	/	/	/	
		e	地域住民や消防署、近隣の他事業所等と日頃から連携を図り、合同の訓練や話し合う機会をつくるなど協力・支援体制を確保している。	○	運営推進会議時に共に話し合い、協力体制確保できている。	×	○	△	
		f	災害時を想定した地域のネットワークづくりに参加したり、共同訓練を行うなど、地域の災害対策に取り組んでいる。(県・市町、自治会、消防、警察、医療機関、福祉施設、他事業所等)	○	災害時を想定、共同訓練を行い、地域と共に災害対策に取り組んでいる	/	/	/	
51	地域のケア拠点としての機能	a	事業所は、日々積み上げている認知症ケアの実践力を活かして地域に向けて情報発信したり、啓発活動等に取り組んでいる。(広報活動、介護教室等の開催、認知症サポーター養成研修や地域の研修・集まり等での講師や実践報告等)	△	運営推進会議の場では情報発信できているが、地域に向けての発信は取り組みが少ない。	/	/	/	地域からの相談対応が不十分な感があるため、事業所のPRに努めるなど、地域からの相談ニーズの集約に努めて欲しい。地域住民に信頼される事業所として法人全体で積み上げてきた実績があり、関係機関との連携も密に取れているが、地域の関係機関等との共同イベントを実施するまでには至っていないため、今後は関係機関等と連絡を取り合い、地域活動等にも積極的に取り組むなど、地域住民からさらに頼られる事業所になるよう努めることが望まれる。
		b	地域の高齢者や認知症の人、その家族等への相談支援を行っている。	○	地域や関連施設も併せ、相談支援できている。	/	△	△	
		c	地域の人たちが集う場所として事業所を解放、活用している。(サロン・カフェ・イベント等交流の場、趣味活動の場、地域の集まりの場等)	△	隣接する介護老人保健施設と合流で行事を行ったり、地域の人々にも開放しているが機会が少し足りないように感じる。	/	/	/	
		d	介護人材やボランティアの養成など地域の人材育成や研修事業等の実習の受け入れに協力している。	△	研修において学校等の研修を受け入れている。	/	/	/	
		e	市町や地域包括支援センター、他の事業所、医療・福祉・教育等各関係機関との連携を密にし、地域活動を協働しながら行っている。(地域イベント、地域啓発、ボランティア活動等)	○	地方祭や文化祭への参加、保育所とも交流があり地域活動を協働できている。	/	/	△	